

平成30年度 学修行動調査レポート

令和元年7月16日

はじめに

本学は、大学の大衆化と学生の多様化が一層進む中、大学教育の質を社会に保証していくことが求められており、これに対応するために各種の施策に取り組んでいます。

その施策の一つとして、後述の「学修行動調査について」の趣旨を踏まえ、学生の質保証や学修成果の可視化への取組に向け、学生本人が、自らの課程を通じた学修成果を把握するために、教育の学修経験を問う「学修行動調査」を平成30(2018)年度末に実施しました。

○学修行動調査について

大学基準協会「大学評価研究」第13号2014年8月において、「現状の教育課程の内容が、学生の主体的な学修を十分に促す内容となっているか、学生が卒業までに教育目標に沿った学修成果を十分に達成できているかを検証し、今後の具体的な改善方策につなげていくPDCAサイクルを確立する必要がある。そのためには、学修時間・学修行動の実態把握が必要となる」との学修行動調査の必要性が述べられています。

目次

- 調査目的／調査概要 3
- 回答者プロフィール 4
- 授業中での経験 13
- 授業時間外の学修態度 20
- 本年度の週当たりの学修等時間 25
- 入学時と比べ、身に付いた学修成果・経験 32
- 学部設問項目 44
- 学修行動調査結果に対する所見 49

調査目的／調査概要

<調査目的>

本調査は、学生の主体的な学修を促す教育課程となっているか、卒業・修了時まで
教育目標に沿った成果が上がっているかなどを検証し、その結果を教育課程や授業の
改善に資することを目的に実施した。

<調査概要>

- ・ 調査方法：インターネット調査（Web調査：拓大ポータルからリンク）
- ・ 調査対象：拓殖大学・学部生、大学院生(約1万人)
- ・ 調査期間：2018年12月20日（木）～2019年2月15日（金）
- ・ 回答者数：2759名

	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部 国際学科	学年計
1年生	115	182	68	125	118	608
2年生	180	275	91	111	102	759
3年生	160	178	57	123	71	589
4年生	175	247	57	127	90	696
学部計	630	882	273	486	381	2652

	学年計
博士課程前期 1年	46
博士課程前期 2年	40
博士課程後期 1年	5
博士課程後期 2年	6
博士課程後期 3年	6
修士課程 1年	1
修士課程 2年	3
大学院生計	107

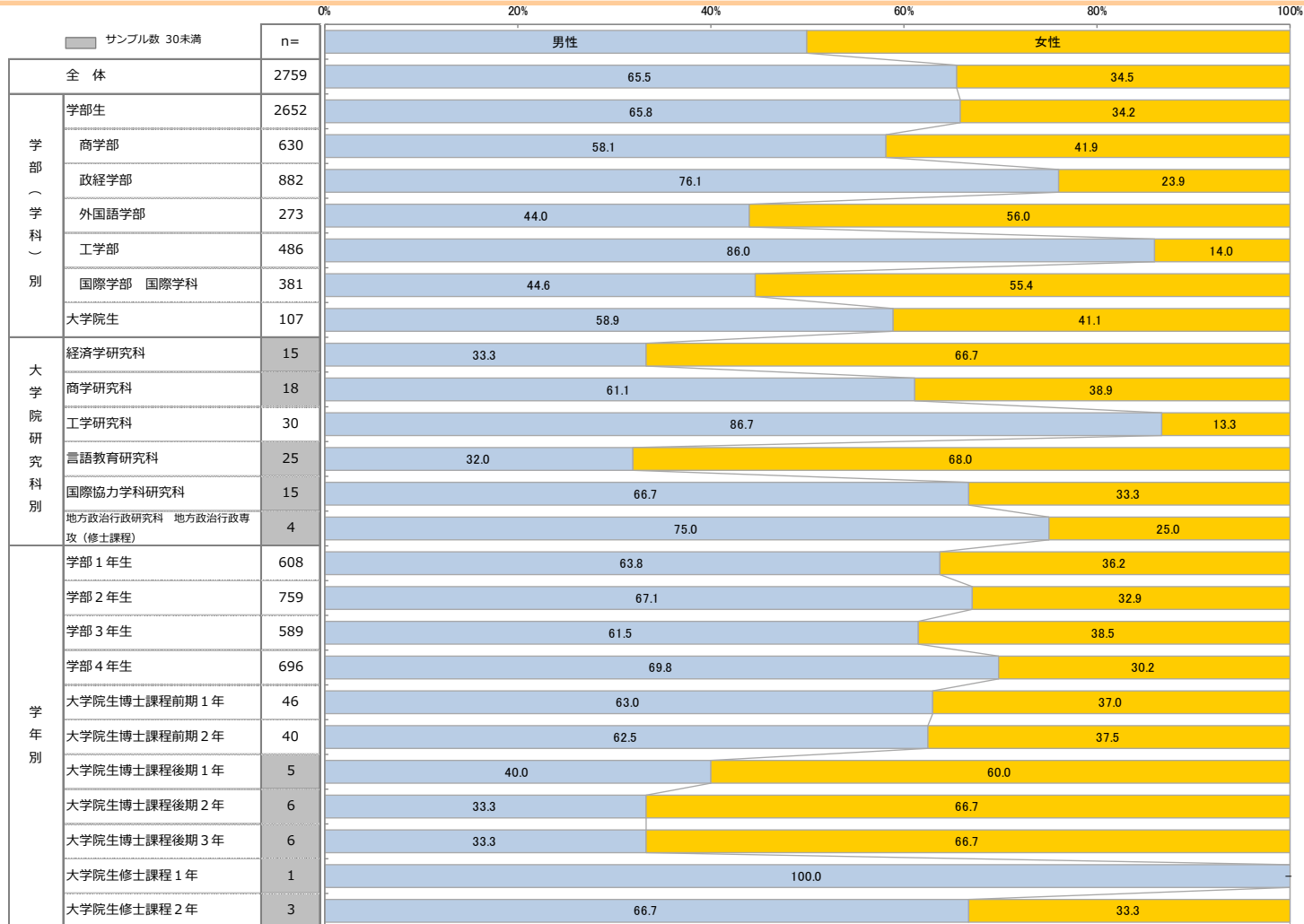
- ・ 調査主体：拓殖大学
- ・ 調査実施：ビデオリサーチ

回答者プロフィール

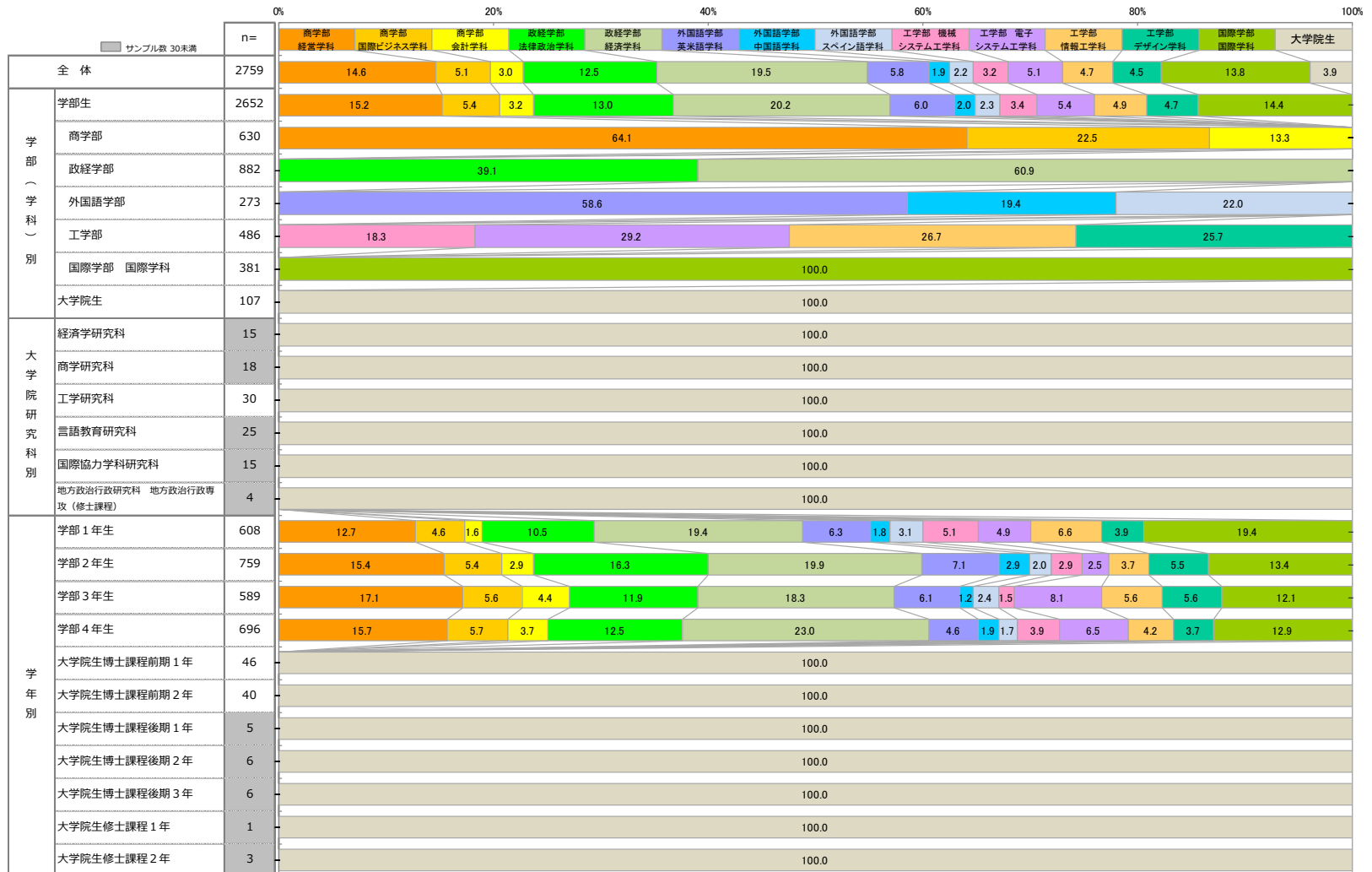
性別

Q1.あなたの性別をお知らせください。(SA)

- 性別は、全体で「男性」65.5%、「女性」34.5%である。
- 学部生、大学院生いずれも「男性」が「女性」を上回る。
学部生の中では、外国語学部と国際学部 国際学科は「女性」が「男性」を上回る。



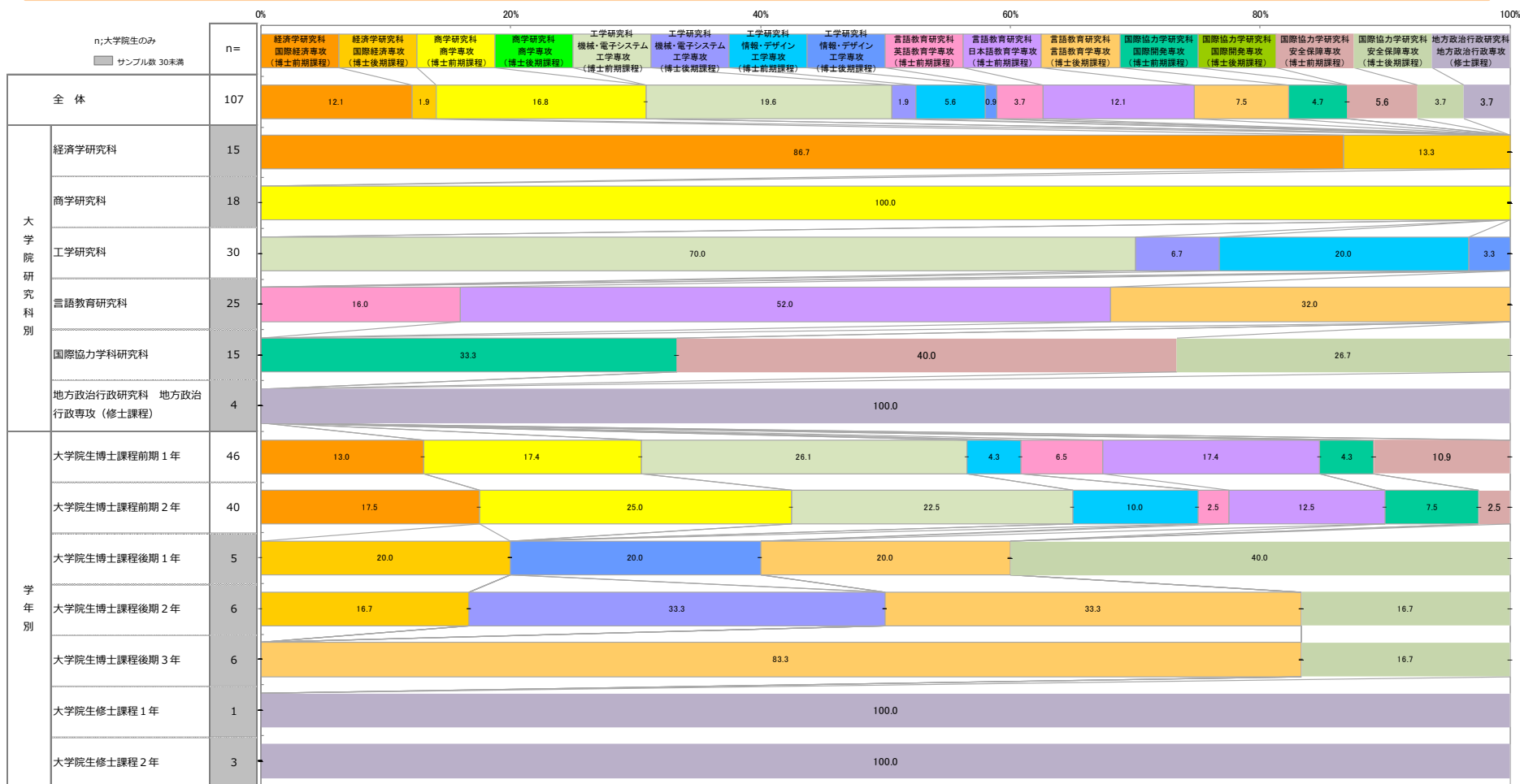
- ・所属は、全体で「政経学部 経済学科」が19.5%、「商学部 経営学科」が14.6%、「国際学部 国際学科」が13.8%、「政経学部 法律政治学科」が12.5%で10%を上回る。
 なお「大学院生」は3.9%である。



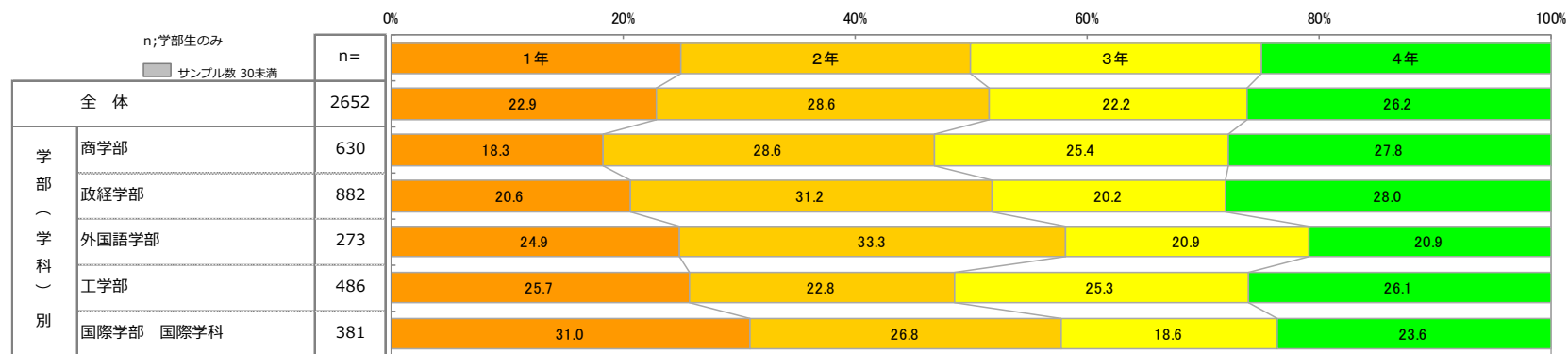
所属（大学院生）

Q2SQ.あなたの所属をお知らせください。（SA）

- ・大学院生の所属は、「工学研究科 機械・電子システム 工学専攻（博士前期課程）」が19.6%、「商学研究科 商学専攻（博士前期課程）」が16.8%、「経済学研究科 国際経済専攻（博士前期課程）」がそれぞれ12.1%で10%を上回る。



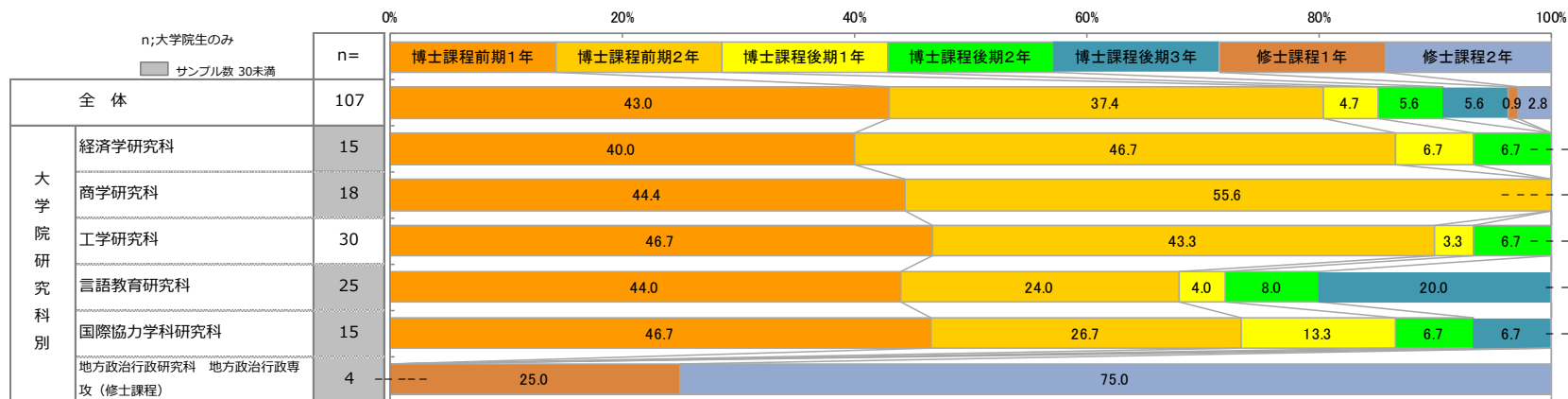
- ・学部生の学年は、「1年」が22.9%、「2年」が28.6%、「3年」が22.2%、「4年」が26.2%である。



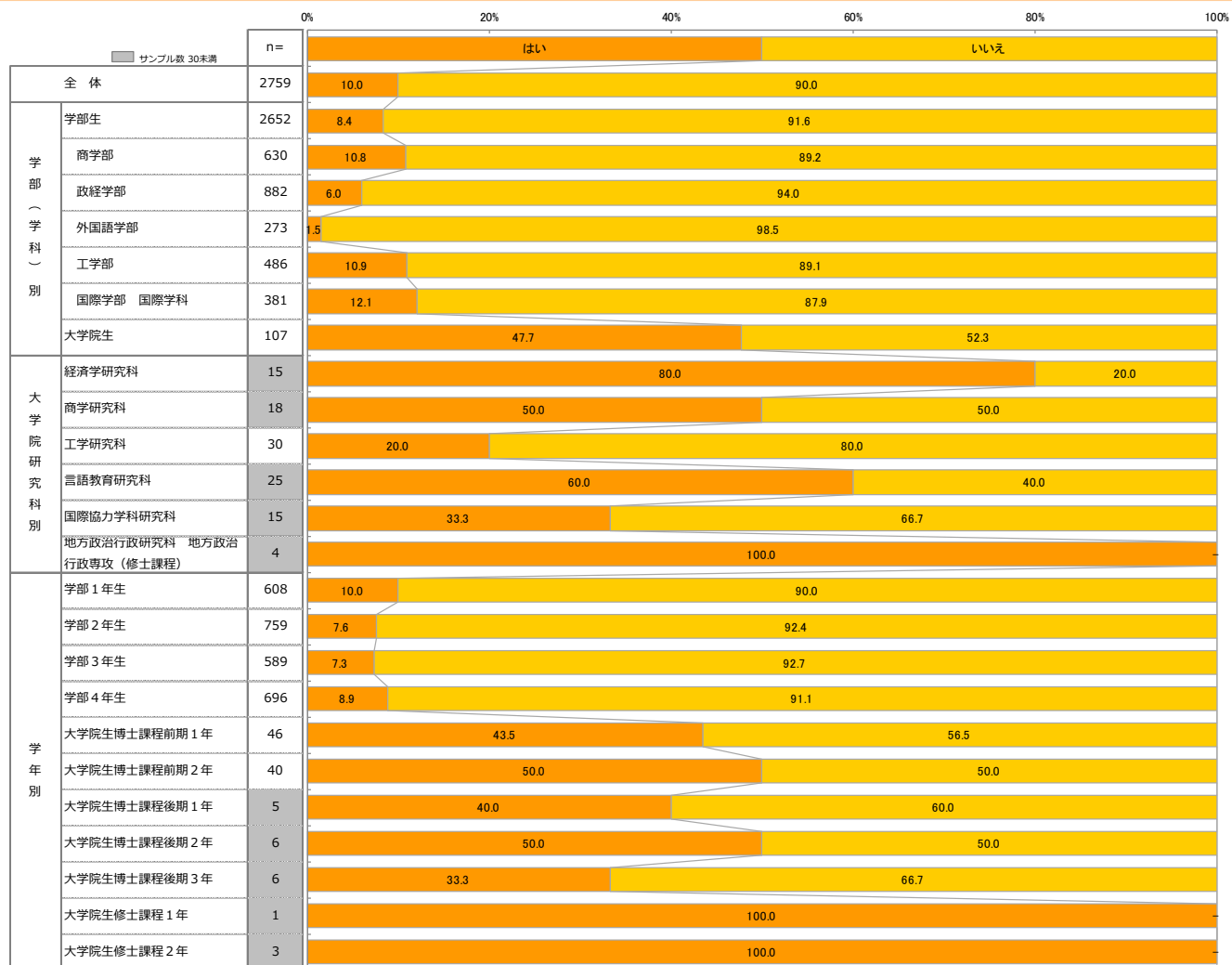
学年（大学院生）

Q2SQ3.あなたの学年をお知らせください。（SA）

- ・大学院生の学年は、「博士課程前期1年」が43.0%、「博士課程前期2年」が37.4%である。「博士課程前期」が合計80%を占める。



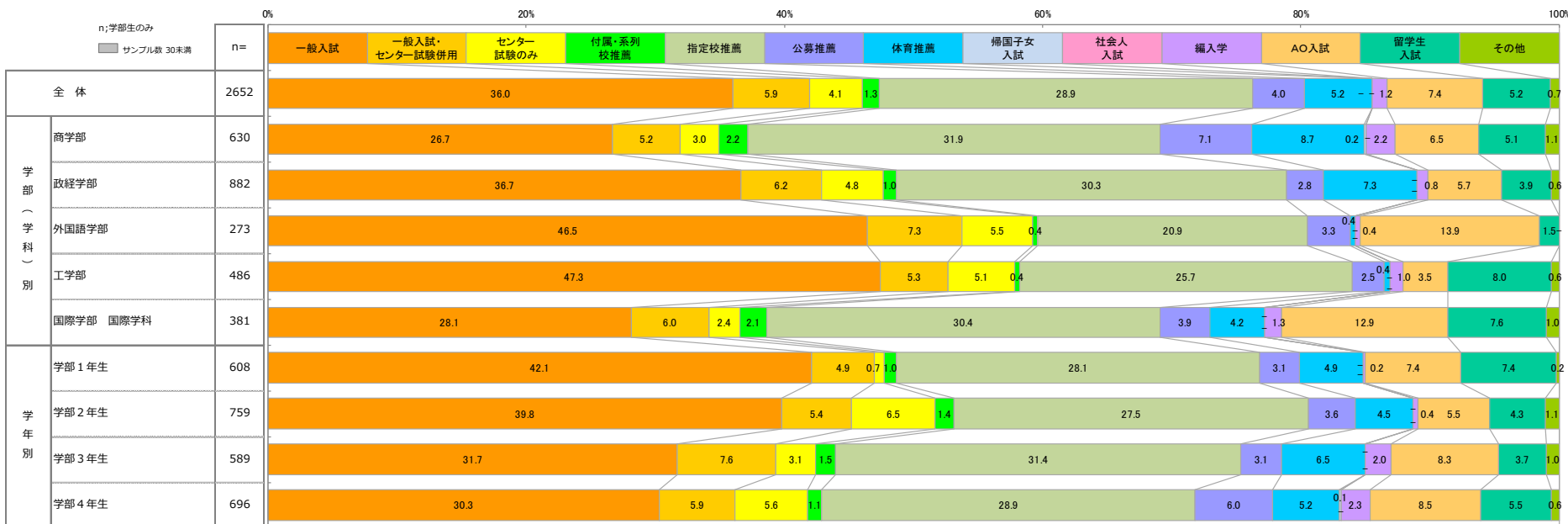
- 外国人留学生比率は、全体の10.0%で、学部生では国際学部 国際学科 (12.1%)、工学部 (10.9%)、商学部 (10.8%) で10%以上である。
- 大学院生では47.7%と約半数が外国人留学生である。



入試種類 (学部生)

Q4. 拓殖大学へはどのような選抜方法で入学しましたか。(SA)

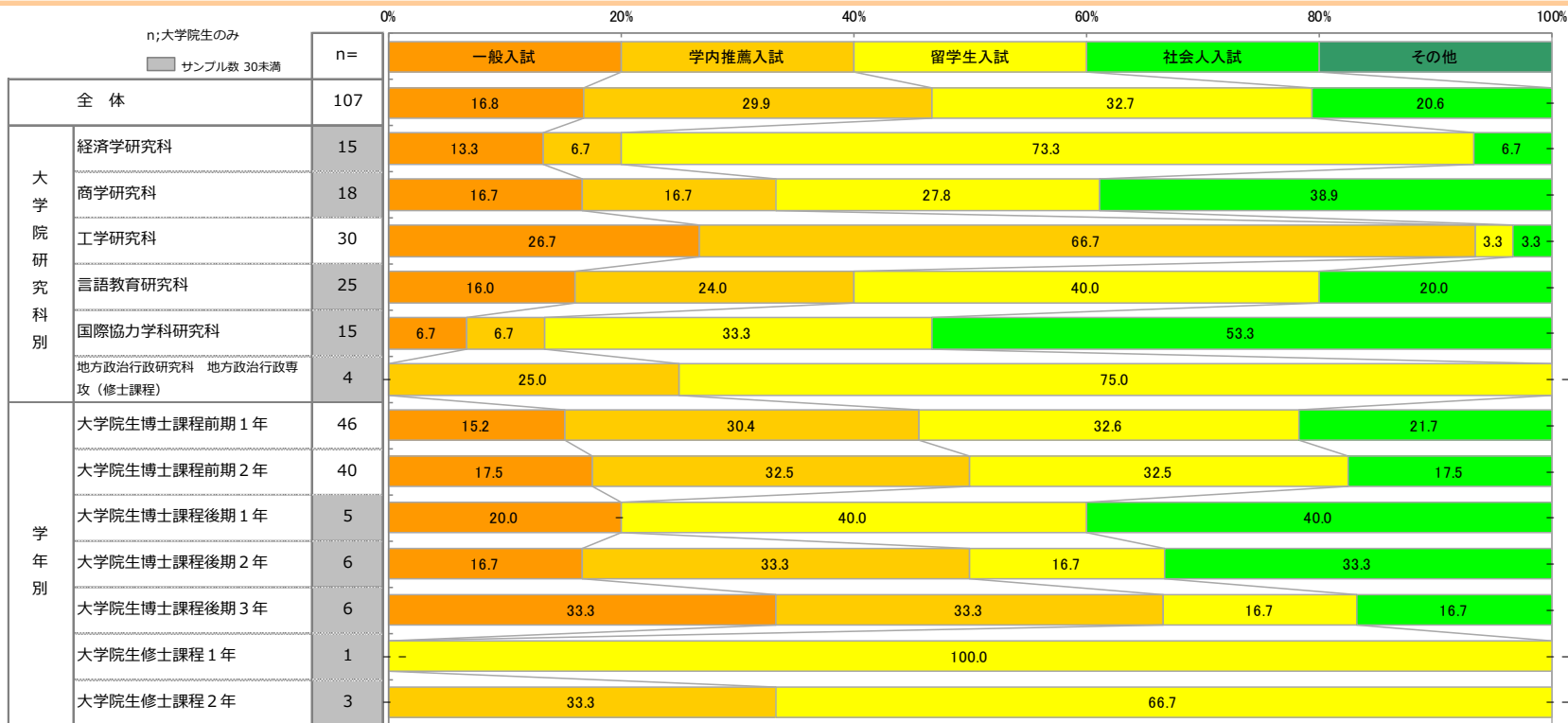
- 学部生の入試種類は、「一般入試」が36.0%で最も多く、「指定校推薦」が28.9%で続く。
- 学部別では、商学部 (+5pt)、国際学部 国際学科 (+2pt) では「指定校推薦」が「一般入試」を上回る。他の学部では「一般入試」が最も多い。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「一般入試」の割合が下がる。



入試種類 (大学院生)

Q5. 拓殖大学大学院へはどのような選抜方法で入学しましたか。(SA)

- ・ 大学院生の入試種類は、「留学生入試」が32.7%で最も多く、「学内推薦入試」が29.9%で続く。

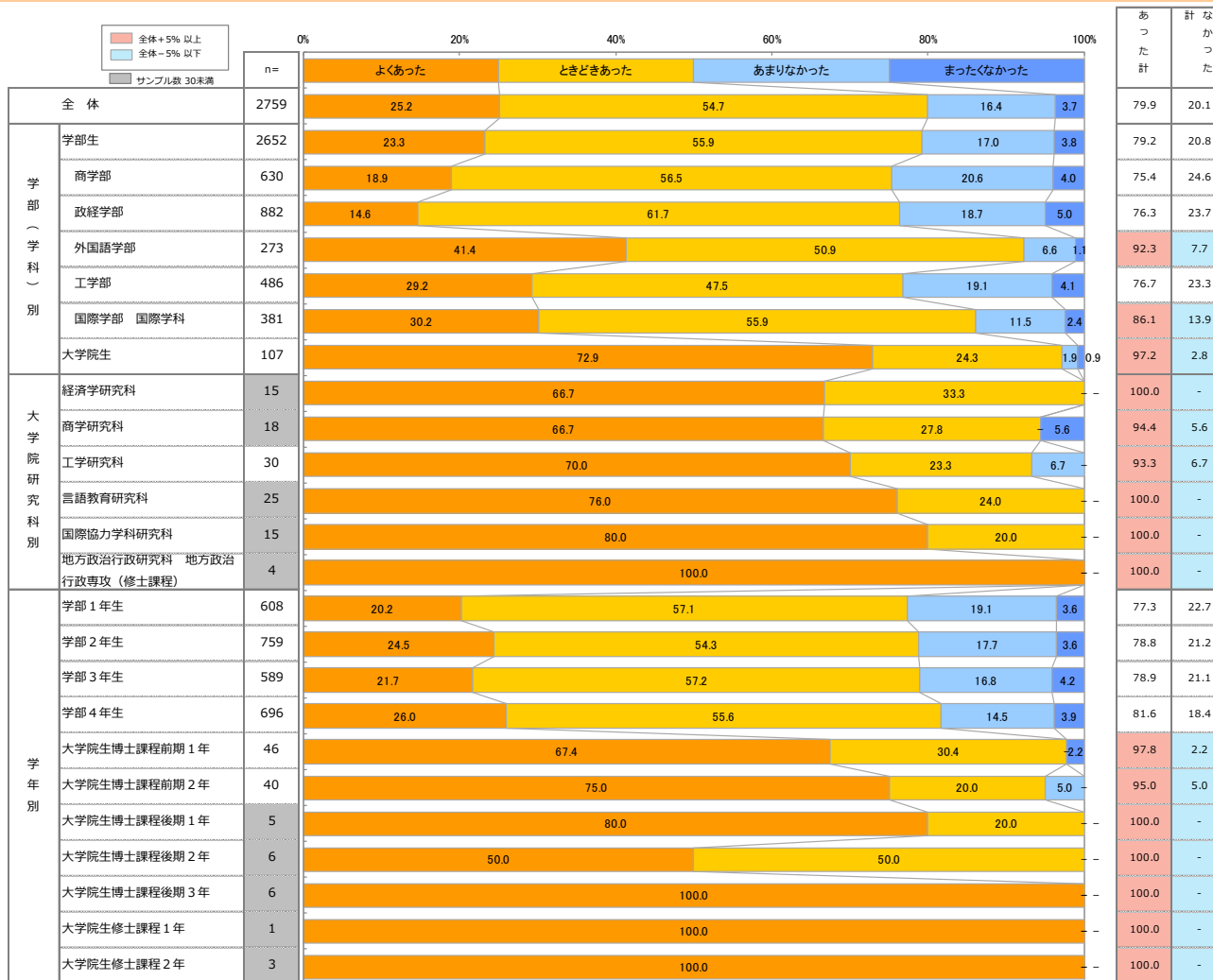


授業中での経験

自分の考えや課題を発表する授業の有無

Q6.自分の考えや課題を発表する授業はありましたか。
(SA)

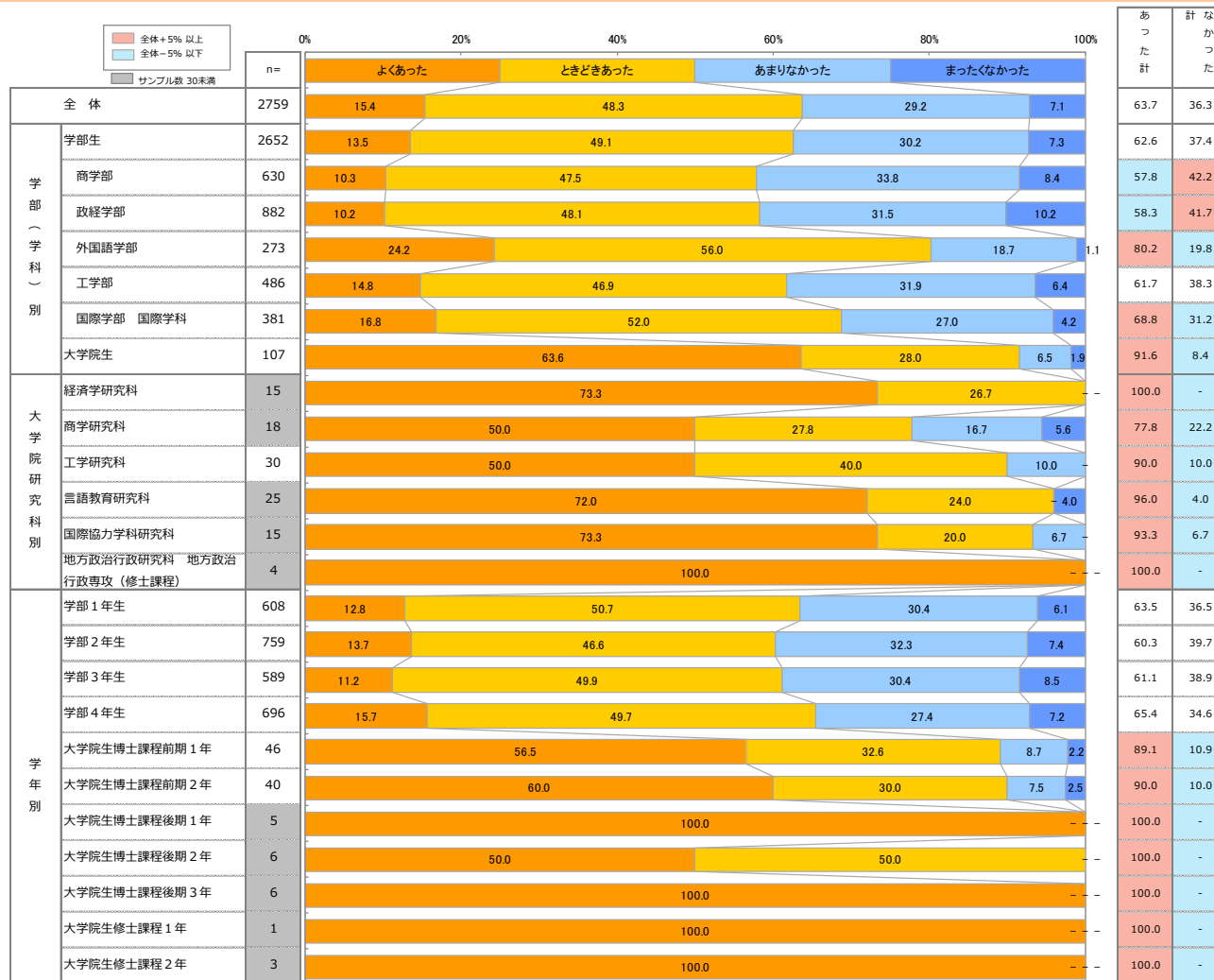
- ・自分の考えや課題を発表する授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の79.9%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の20.1%を大きく上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を大きく上回る。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が92.3%で最も高く、国際学部 国際学科が86.1%で続く。また、大学院生は「あった計」が97.2%（全体より+17pt）に達する。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。



教員への質問・意見を述べたことの経験の有無

Q7.教員に質問したり、意見を述べたことはありましたか。(SA)

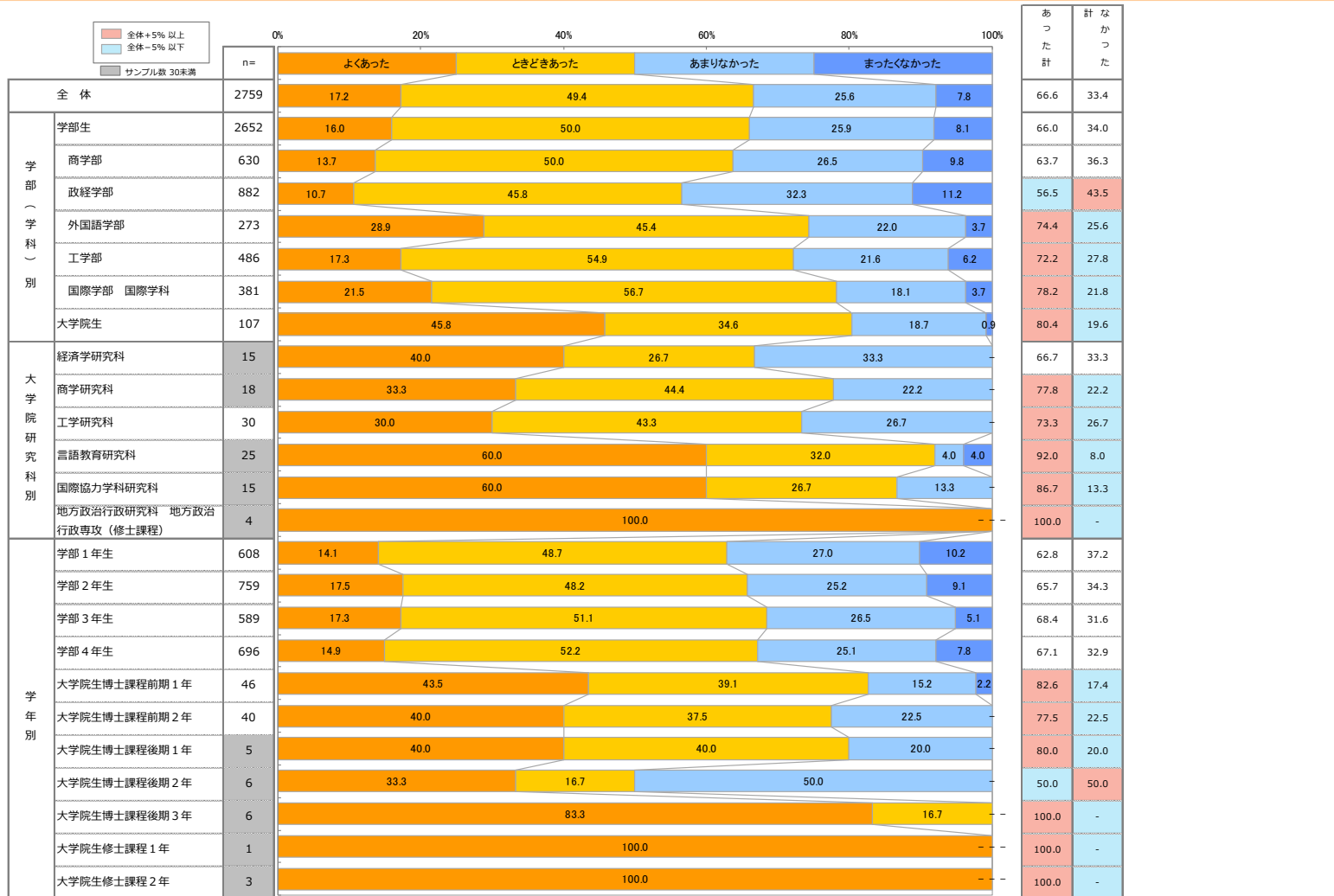
- ・教員への質問・意見を述べたことの経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の63.7%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の36.3%を上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。なお、「なかった計」は、全体に比べ商学部で6pt、政経学部で5pt上回っているのが特徴的。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が80.2%（全体より+17pt）で特に高く、国際学部 国際学科が68.8%（全体より+5pt）で続く。また、大学院生は「あった計」が91.6%に達する。
- ・学年別で「あった計」をみると、学部4年生は65.4%で最も高く、続くのは1年生の63.5%となった。



学生同士が議論する授業の有無

Q8.学生同士が議論する授業はありましたか。(SA)

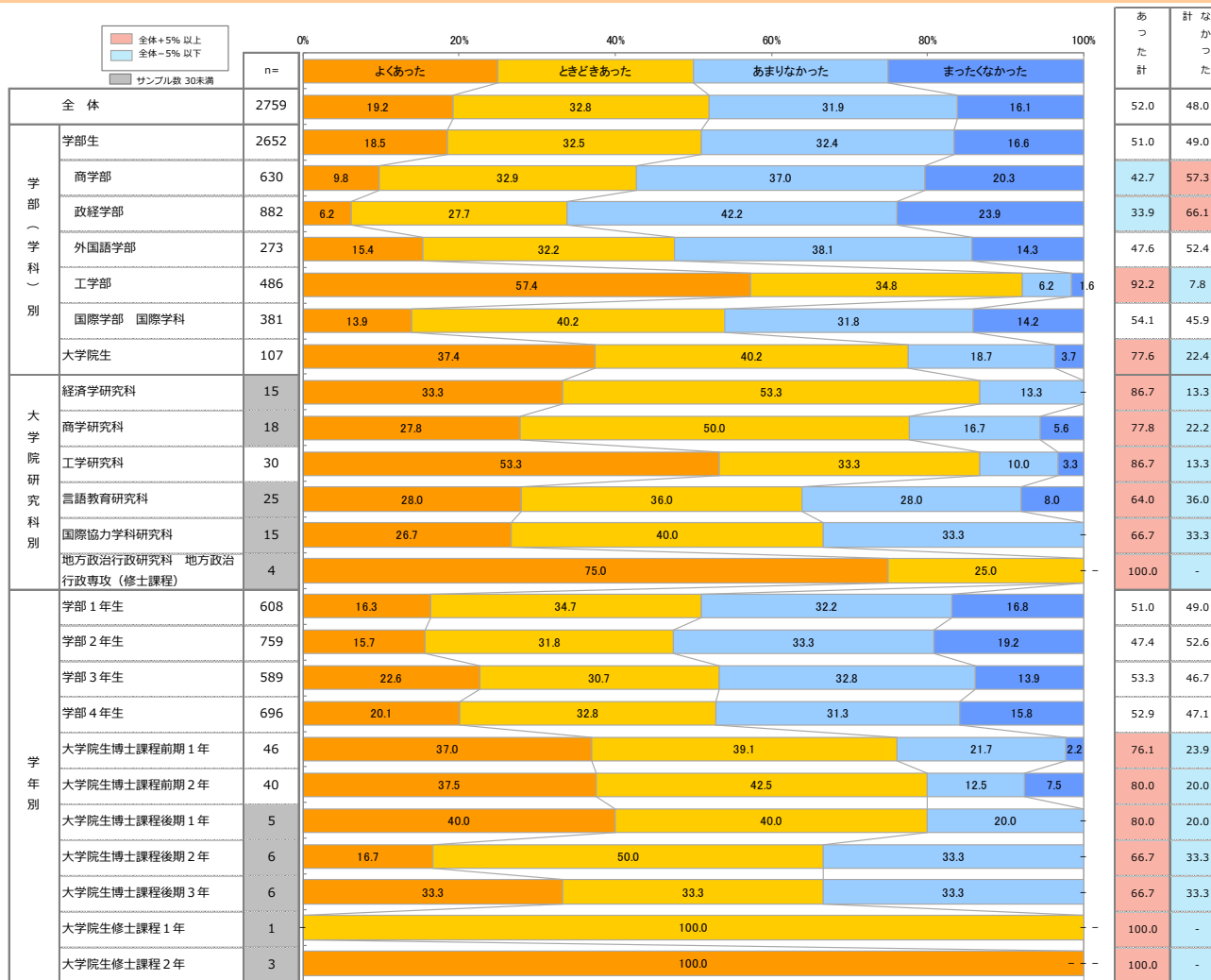
- ・学生同士が議論する授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の66.6%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の33.4%を上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。なお政経学部は「なかった計」（全体より+10pt）が高い。「あった計」をみると、学部生では国際学部 国際学科が78.2%（全体より+12pt）で最も高く、外国語学部が74.4%（全体より+8pt）、工学部が72.2%（全体より+6pt）で続く。また大学院生は「あった計」が80.4%に達する。
- ・学年別では、学部1年生から3年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。4年生は67.1%と3年生（68.4%）とほぼ同等である。



演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業の有無

Q9. 演習、実験、実習、フィールドワークなどを通して体験する授業はありましたか。(SA)

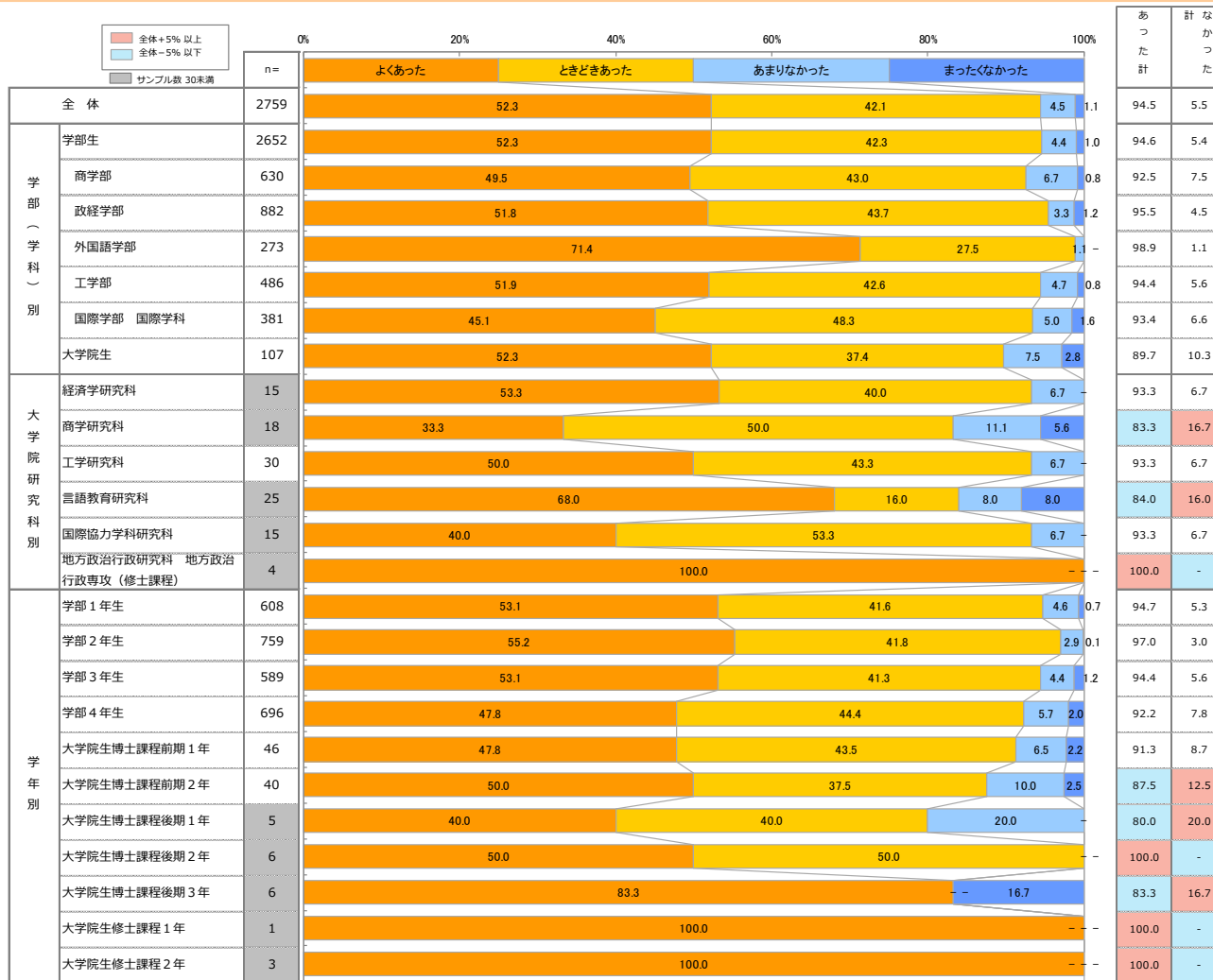
- ・演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の52.0%で、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」は48.0%。
- ・学部別では、工学部、国際学部 国際学科のみ「あった計」が「なかった計」を上回る。特に工学部では92.2%に達した。また、大学院生の「あった計」は77.6%であった。
- ・学年別では、学部2年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。1年生は51.0%と2年生（47.4%）を上回った。



定期的な小テスト・レポートのある授業の有無

Q10. 定期的に小テストやレポートが課せられた授業はありましたか。(SA)

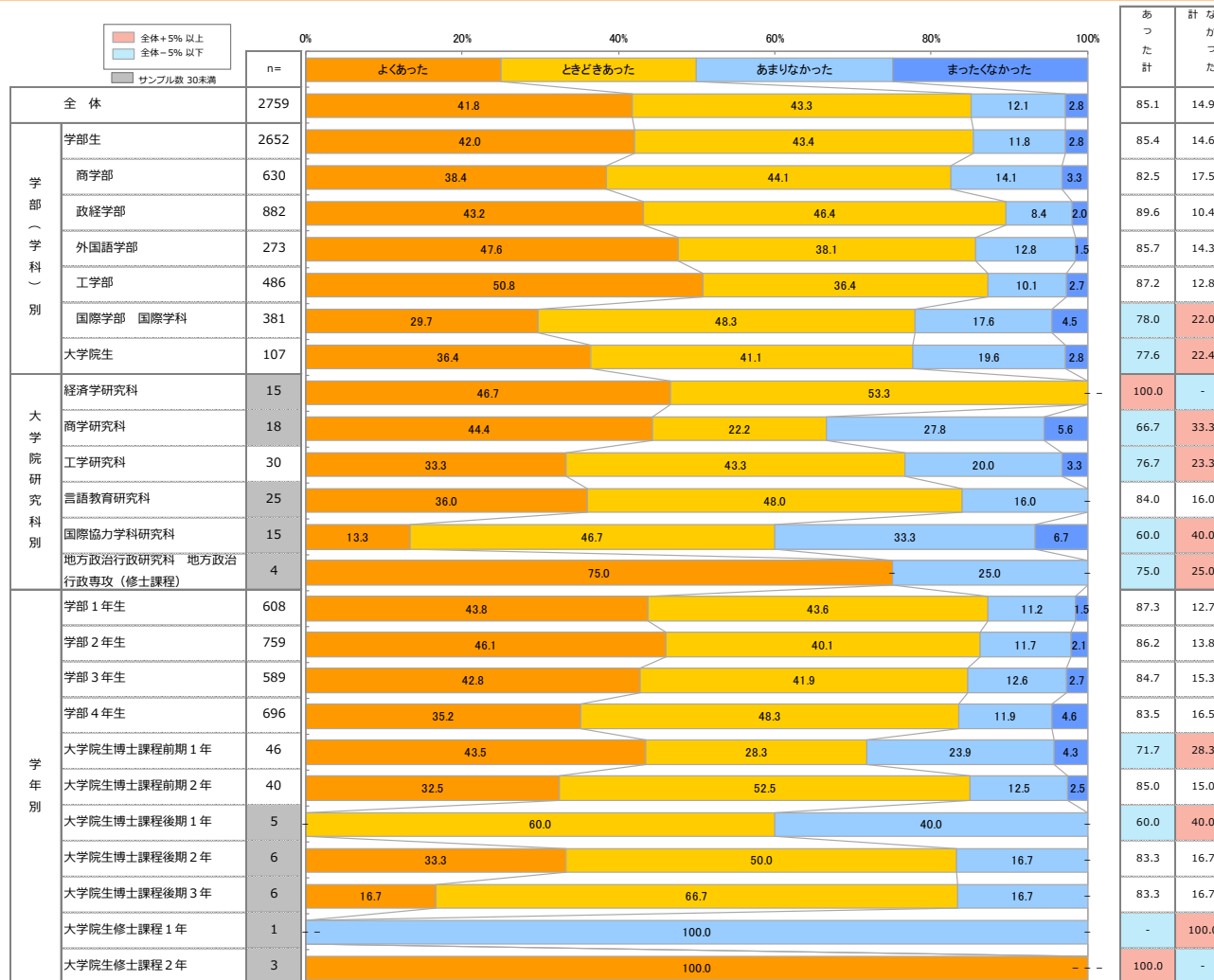
- 定期的な小テスト・レポートのある授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の94.5%に達した。
- 各学部をみても「あった計」は90%台と大きな差はみられない。
また、大学院生の「あった計」は89.7%に達する。
- 学年別では、学部2年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が下がる。



Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業の有無

Q11.Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業はありましたか。(SA)

- ・Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の85.1%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の14.9%を大きく上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。その中で、国際学部 国際学科は「あった計」が78.0%で最も低い。
- また、大学院生の「あった計」は77.6%であった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が下がる。

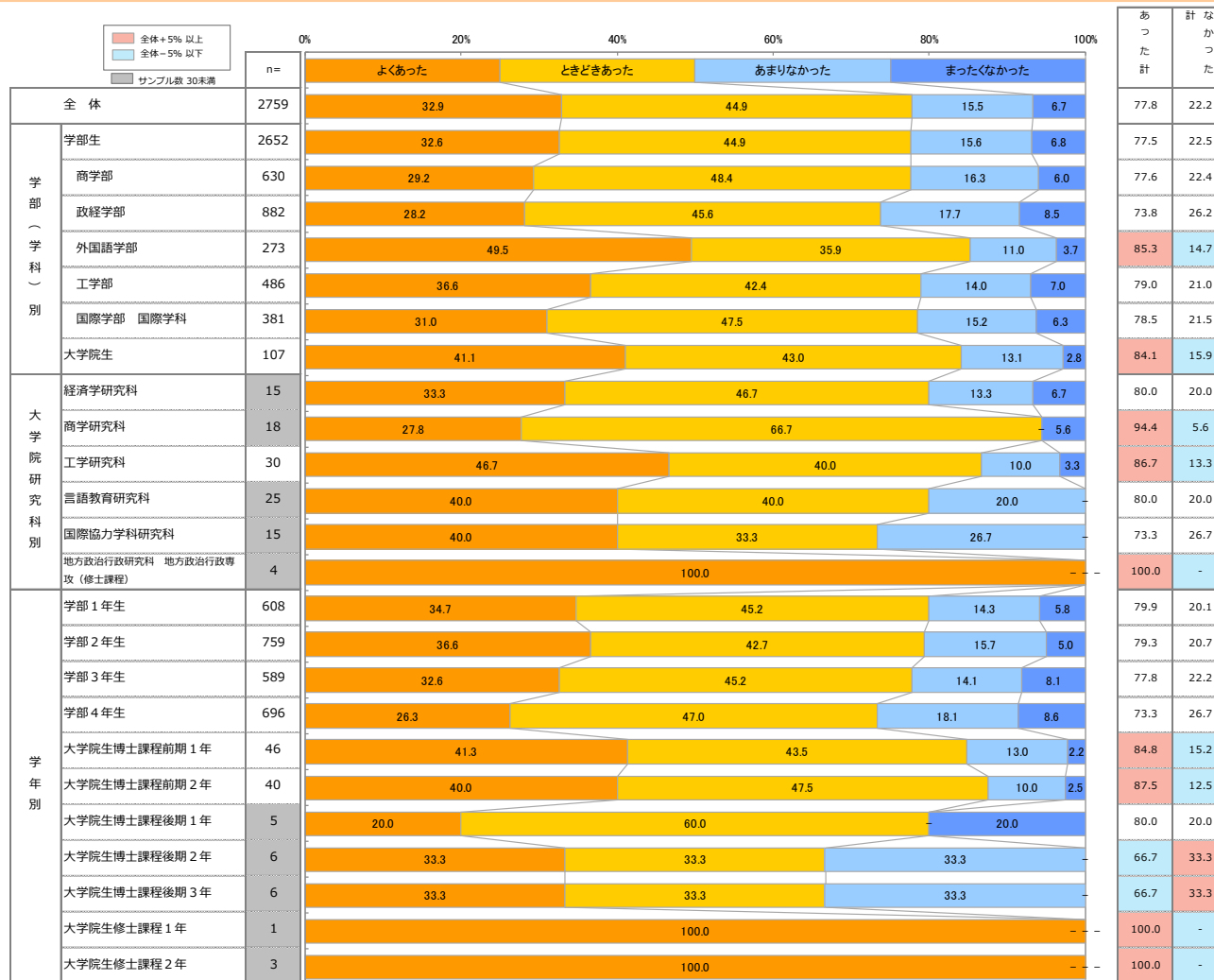


授業時間外の学修態度

他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験の有無

Q12.他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強したことがありますか。(SA)

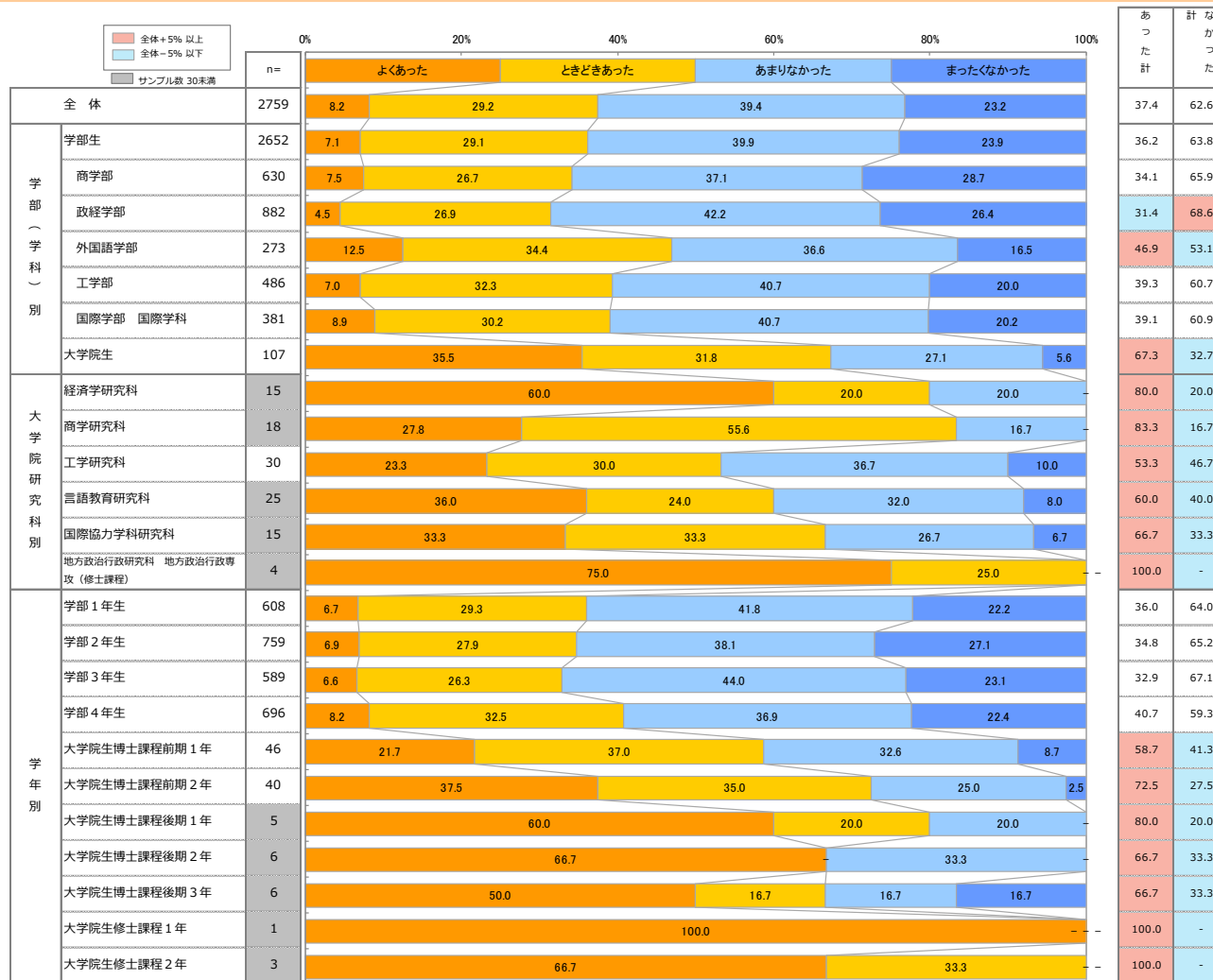
- 他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の77.8%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の22.2%を大きく上回る。
- 学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を大きく上回る。
「あった計」をみると、学部生では外国語学部が85.3%で最も高い。大学院生は「あった計」が84.1%。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が下がる。



教職員への学修に関する相談経験の有無

Q13.教職員に学修に関する相談をしたことがありましたか。(SA)

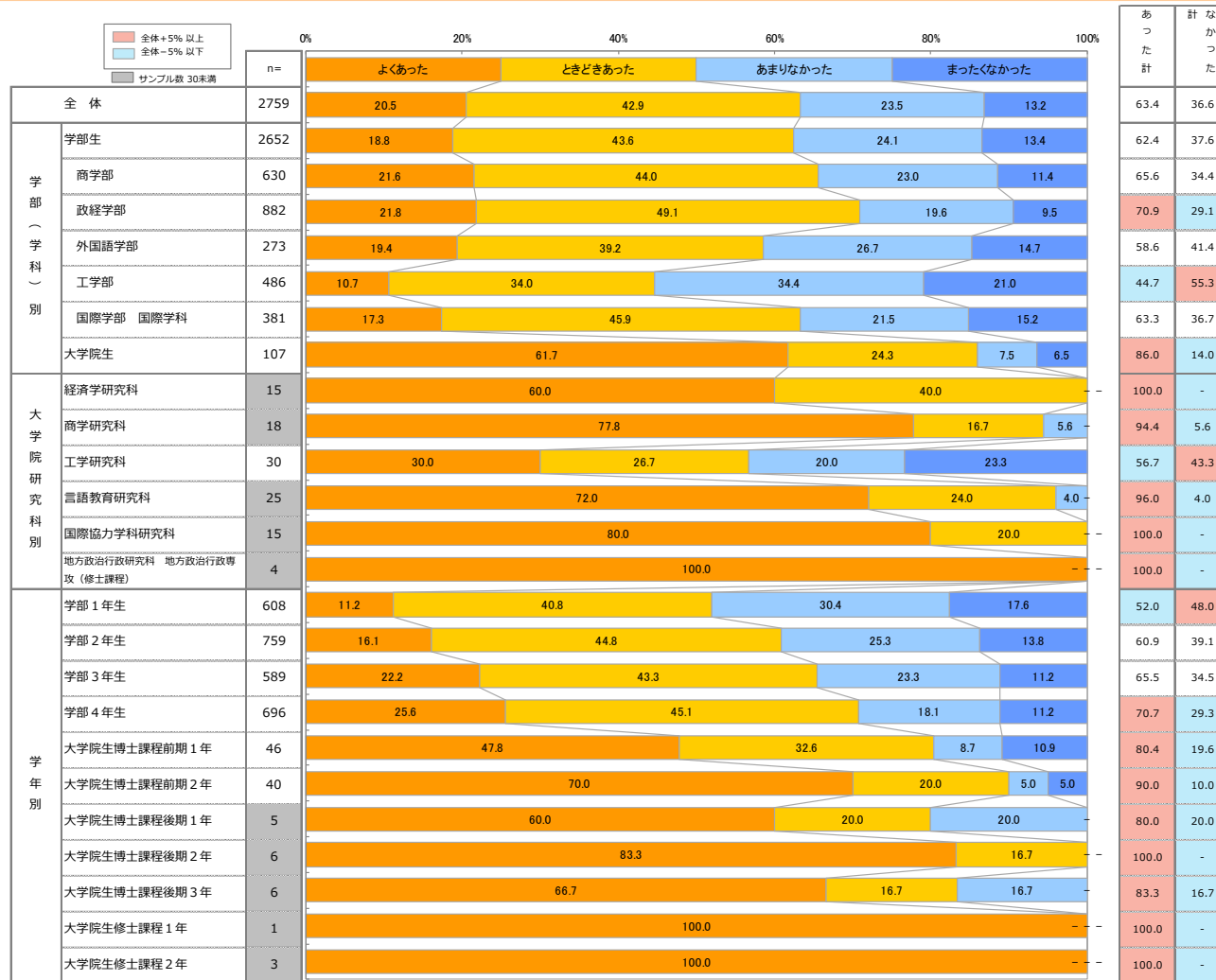
- ・教職員への学修に関する相談経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の37.4%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の62.6%を下回る。
- ・学部別では、学部生は全ての学部で「あった計」が「なかった計」を下回る。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が46.9%で最も高い。大学院生は「あった計」が67.3%と、学部生よりも高い。
- ・学年別では、学部1年生から3年生までは「あった計」が下がるが、4年生では40%を超えて高め。



授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験の有無

Q14. 授業や課題のために図書館で資料・文献を調べたことがありましたか。(SA)

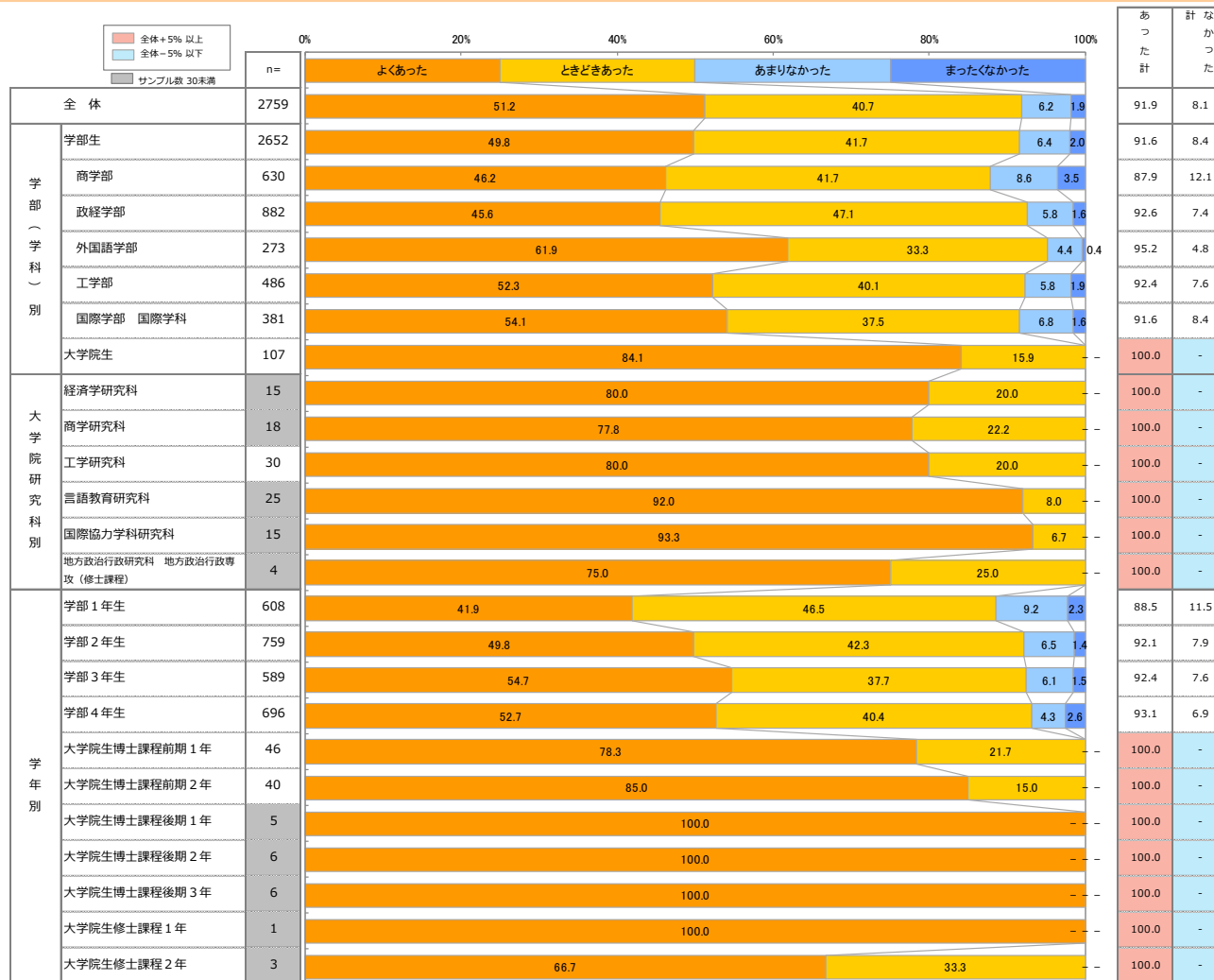
- ・ 授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の63.4%と「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の36.6%を上回る。
- ・ 学部別では、工学部以外の各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。工学部では「あった計」が44.7%なのに対し「なかった計」が55.3%であった。「あった計」をみると、学部生では政経学部が70.9%（全体より+8pt）で最も高い。大学院生は「あった計」が86.0%に達する。
- ・ 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。



授業や課題のためインターネットでの情報収集経験の有無

Q15. 授業や課題のためにインターネットで情報を集めたりしたことがありますか。(SA)

- ・ 授業や課題のためインターネットでの情報収集経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の91.9%に達している。
- ・ 学部別で「あった計」をみると、一番低い商学部でも87.9%に達し、他の学部は90%以上となっている。大学院生は「あった計」が100%という結果になった。
- ・ 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。



**本年度の週当たりの
学修等時間**

週当たりの授業出席科目数

Q16.どの程度授業に出席しましたか。(SA)

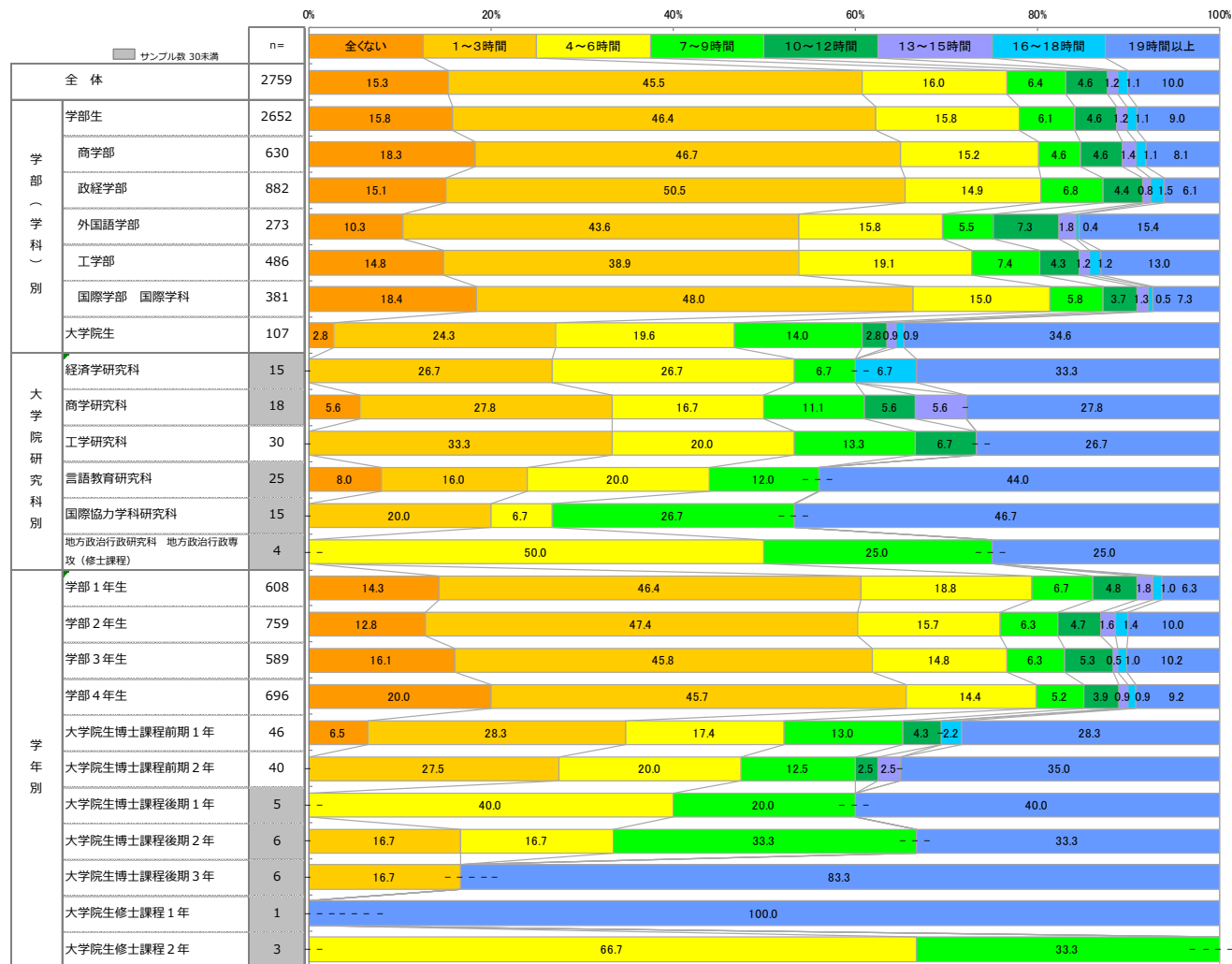
- 週当たりの授業出席科目数は「13科目以上」が全体の39.2%で最も多い。「11～12科目」が19.4%、「9～10科目」が11.7%で続く。
- 学部別では、学部生は全ての学部で「13科目以上」が最も多く、国際学部 国際学科が47.2%で最も高い。大学院生は「13科目以上」(23.4%)が最も多く、以降、「1～2科目」(21.5%)、「7～8科目」(19.6%)と続く。
- 学年別では、学部1年生、2年生は「13科目以上」が50%以上だが、3年生以降はそのスコア水準が大きく下がる。4年生では「1～2科目」が27.3%で最も多い。



週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間

Q17.授業時間以外に授業と関連した学修や経験をどの程度しましたか。(SA)

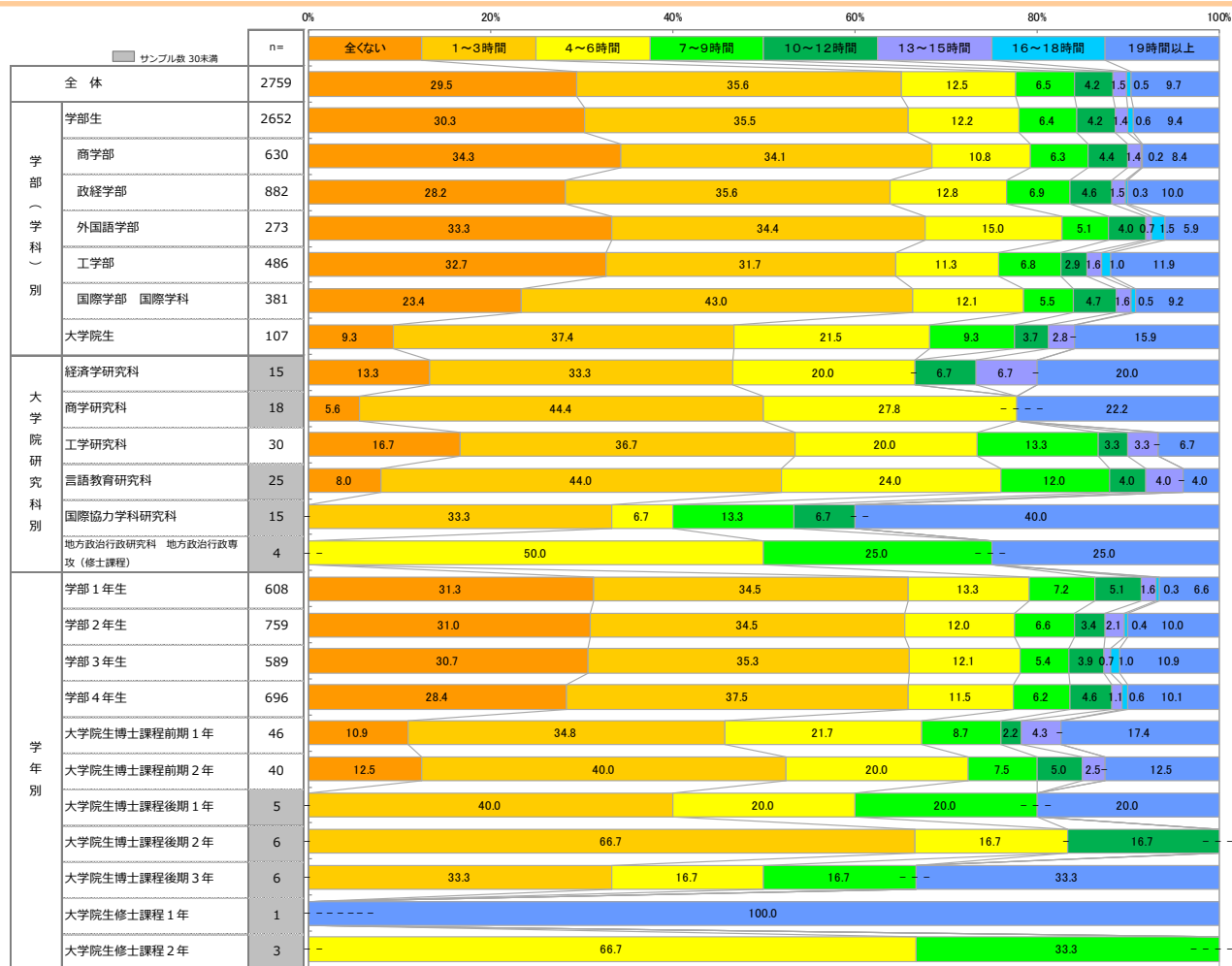
- ・週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間は全体で見ると、「1～3時間」が45.5%で最も多い。以降、「4～6時間」が16.0%、「19時間以上」が10.0%で続く。なお「全くない」は15.3%。
- ・学部別では、学部生は全ての学部で「1～3時間」が最も多く、政経学部が50.5%で最も高い。なお、外国語学部（15.4%）、工学部（13.0%）では「19時間以上」が10%以上。大学院生は「19時間以上」が34.6%で最も多い（全体より+25pt）。
- ・学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「1～3時間」が4割台と最も多い。



週当たりの授業と関連しない読書時間

Q18.授業と関連しない読書をどの程度しましたか（マンガ・雑誌を除く）。（SA）

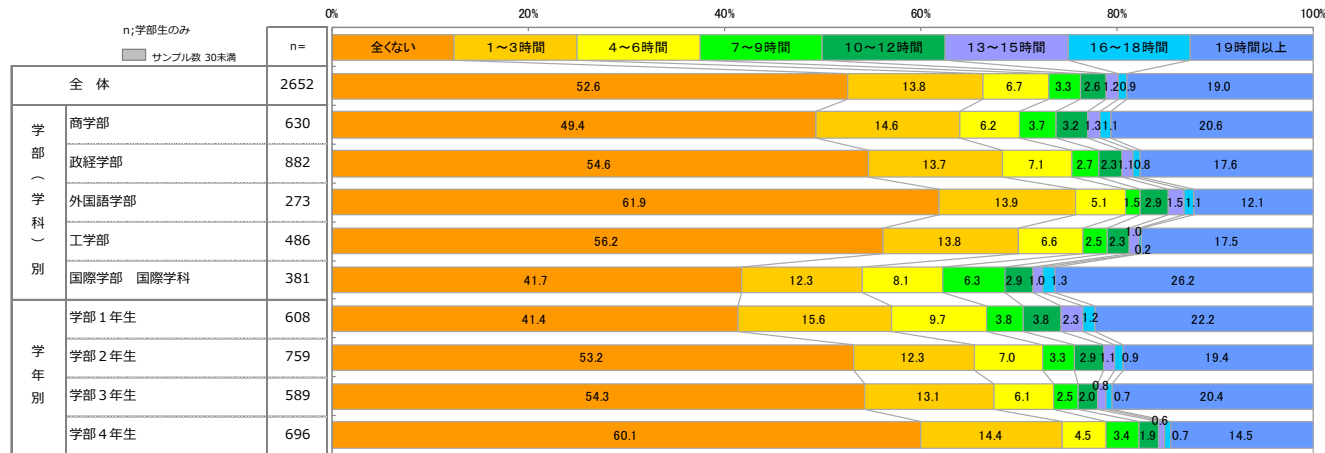
- 週当たりの授業と関連しない読書時間は全体で見ると、「1～3時間」が35.6%で最も多い。「4～6時間」が12.5%で続く。
- 学部別で、1時間以上の合計をみると、国際学部 国際学科（76.6%）が最も時間を割いており、政経学部（71.8%）が続く。各学部で「1～3時間」が最も多く、国際学部 国際学科（43.0%）が最も高い。工学部で「19時間以上」が11.9%と特徴的。大学院生は「1～3時間」（37.4%）が最も多く、「4～6時間」が21.5%、「19時間以上」が15.9%と学部生より時間を割いていることが伺える。
- 学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「1～3時間」が最も多い。



週当たりの部活動・サークル活動参加時間

Q19.どの程度部活動やサークル活動に参加しましたか。
(SA)

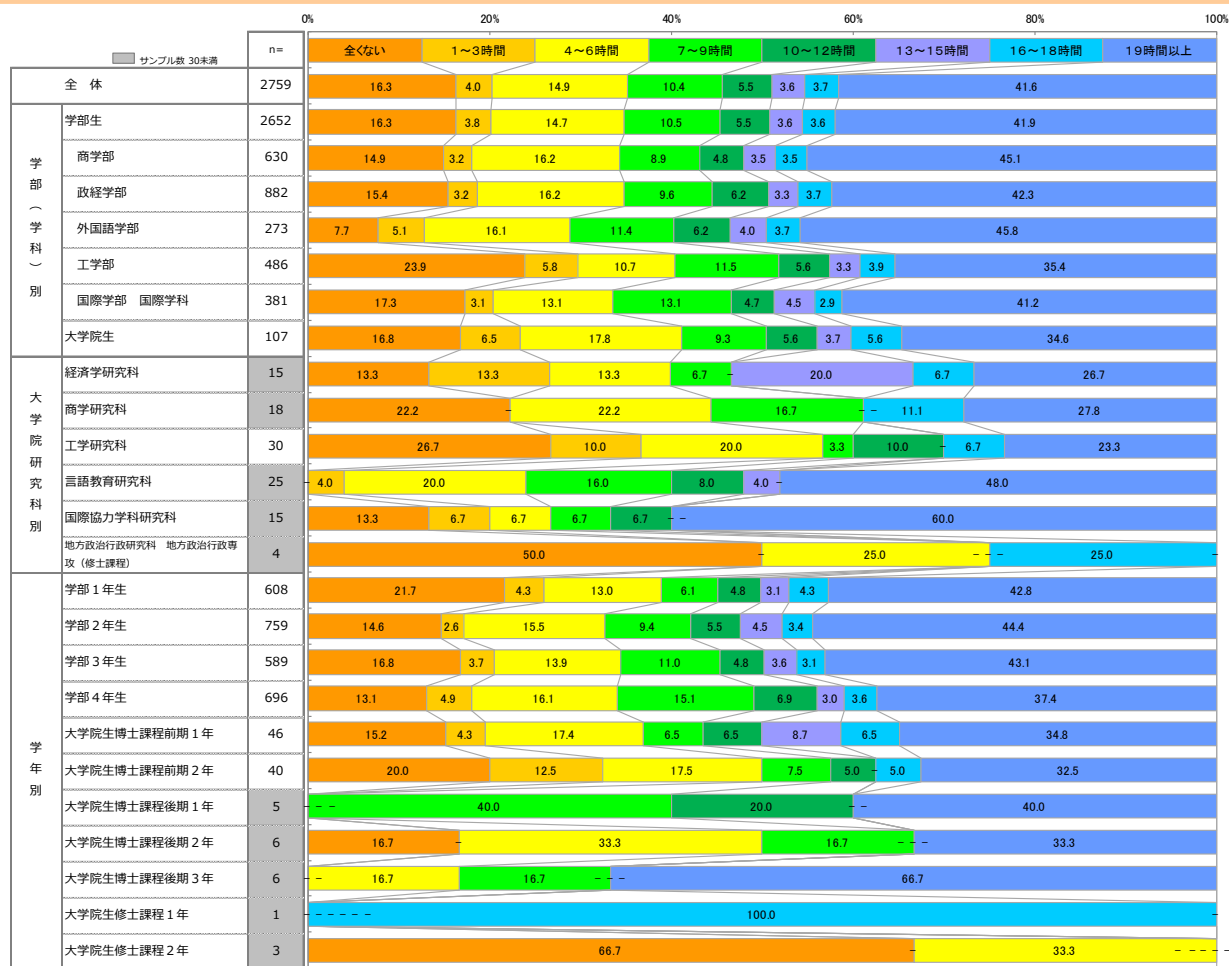
- 学部生の週当たりの部活動・サークル活動参加時間は全体で見ると、「19時間以上」が19.0%で最も多い。「1～3時間」が13.8%で続く。
- 学部別で、1時間以上の合計をみると、国際学部 国際学科 (58.3%)が最も時間を割いており、商学部 (50.6%)が続く。参加時間は「19時間以上」が国際学部 国際学科(26.2%)、商学部 (20.6%)、政経学部 (17.6%)、工学部(17.5%)と続く。外国語学部の1時間以上の合計は38.1%と最も低い。
- 学年別では、1年生の1時間以上の部活動・サークル活動の参加が最も多く (58.6%)、以降、学年が上がるにつれスコアは下がっていく。4年生では39.9%となる。



週当たりのアルバイト・就労時間

Q20.どの程度アルバイトや仕事をしましたか。(SA)

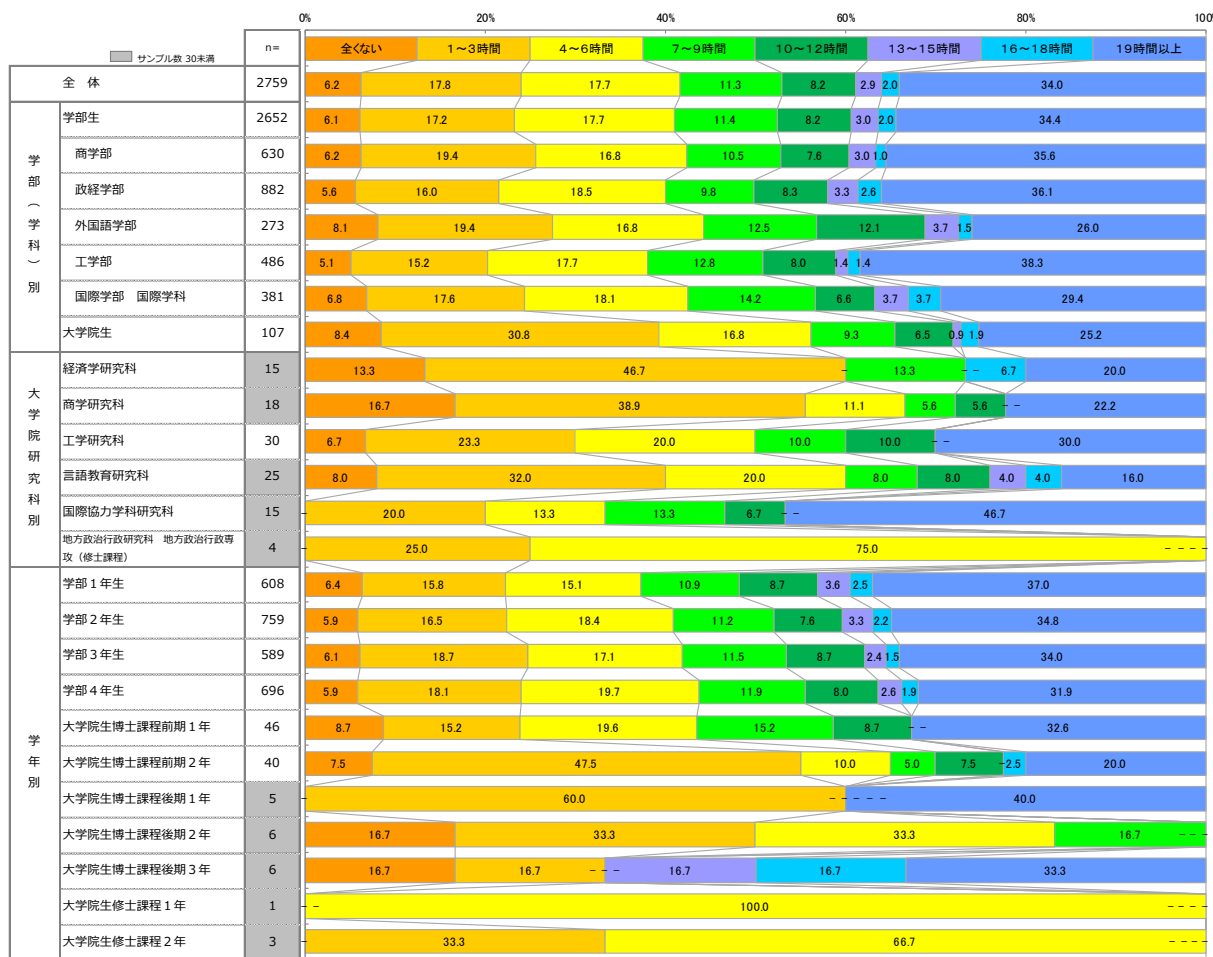
- 週当たりのアルバイト・就労時間は全体でみると、「19時間以上」が41.6%で最も多い。「4～6時間」が14.9%、「7～9時間」が10.4%で続く。
- 学部別で、1時間以上の合計をみると、外国語学部（92.3%）が最も時間を割いており、商学部（85.1%）、政経学部（84.6%）が続く。
学部生は全ての学部で「19時間以上」が最も多く、外国語学部（45.8%）、商学部（45.1%）、政経学部（42.3%）、国際学部 国際学科（41.2%）、工学部（35.4%）の順で高い。
大学院生は「19時間以上」が34.6%。
- 学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「19時間以上」が最も多い。



週当たりの個人的な趣味活動時間

Q21.どの程度個人的な趣味活動をしましたか。(SA)

- ・週当たりの個人的な趣味活動時間は全体で見ると、「19時間以上」が34.0%で最も多い。「1～3時間」が17.8%、「4～6時間」が17.7%、「7～9時間」が11.3%で続く。
- ・学部別で、1時間以上の合計をみると、学部間での差はさほどない（いずれも90%台）。学部生は全ての学部で「19時間以上」が最も多く、工学部（38.3%）、政経学部（36.1%）、商学部（35.6%）が30%以上。大学院生は「1～3時間」が30.8%で最も多い。
- ・学年別では、学部1年生から4年生までの学年でも「19時間以上」が最も多い。なお、学年が上がるにつれ、「19時間以上」のスコアは低下している。

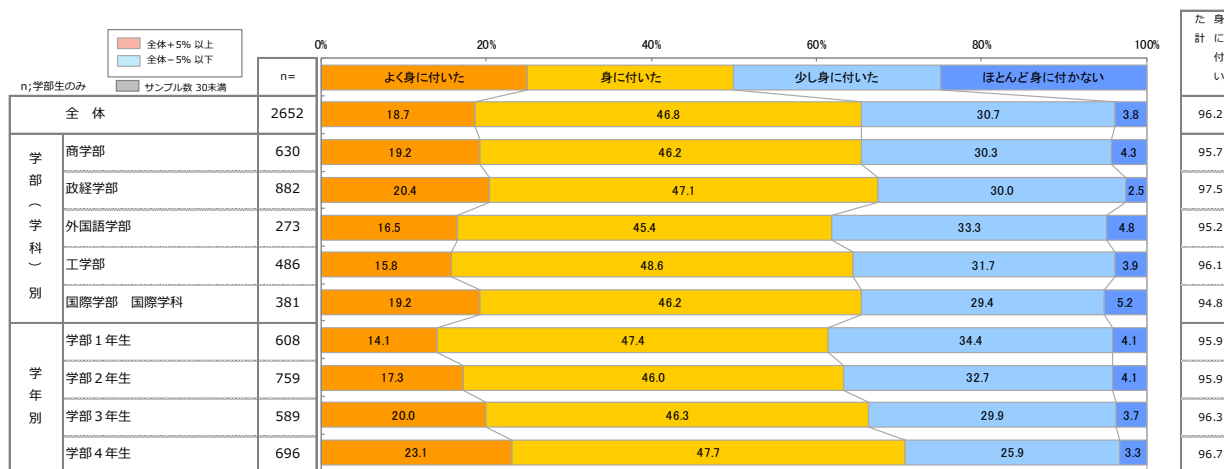


入学時と比べ、身に付いた
学修成果・経験

一般的な教養

Q22.一般的な教養が身に付きましたか。(SA)

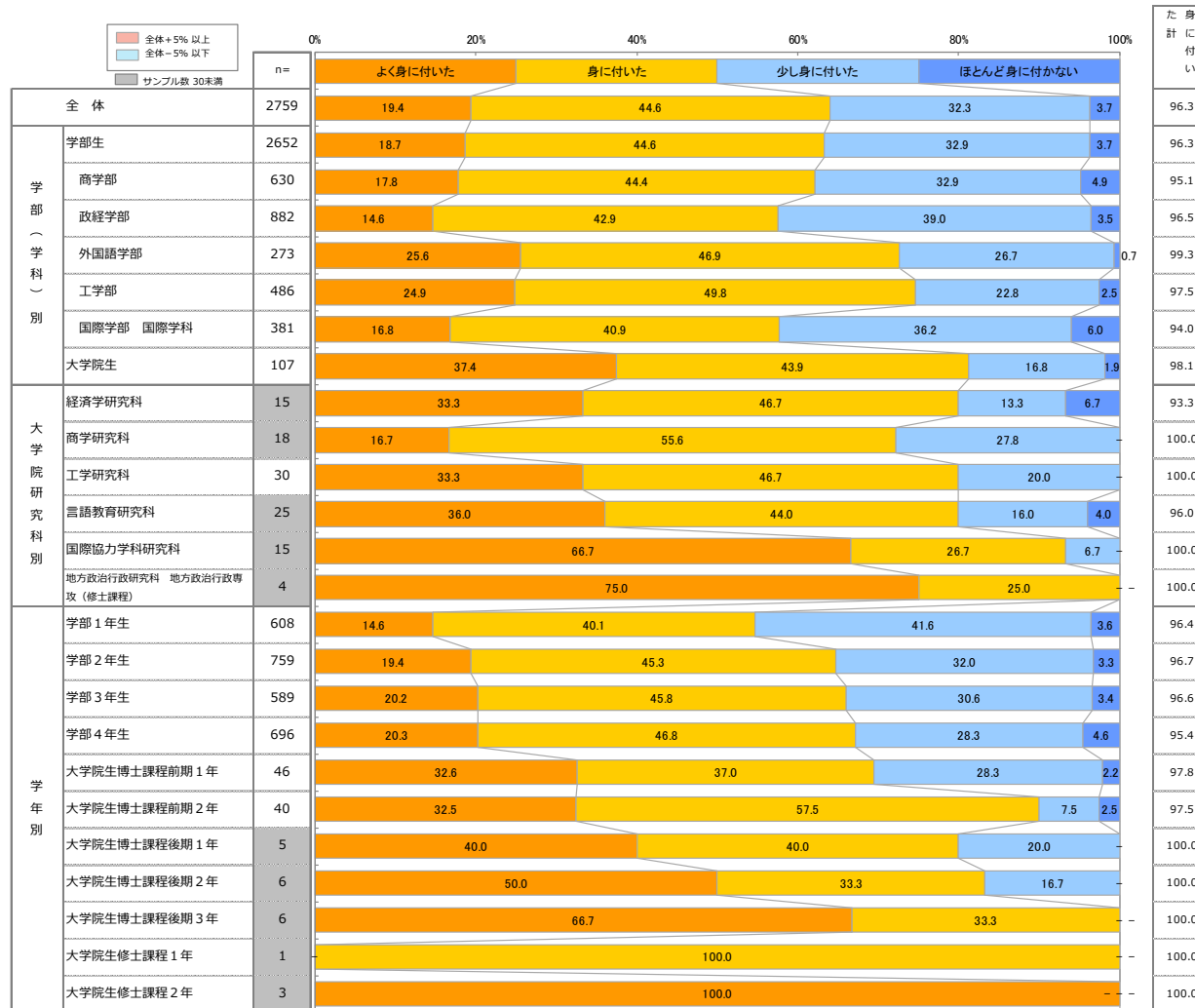
- 学部生の一般的な教養の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.2%に達し、「よく身に付いた」は18.7%となった。
- 学部別では、各学部で「身に付いた計」がおおむね95%以上。
「よく身に付いた」をみると、政経学部が20.4%で最も高く、商学部、国際学部 国際学科がともに19.2%で続く。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



専門分野に関する知識・技能

Q23.専門分野に関する知識・技能が身に付きましたか。(SA)

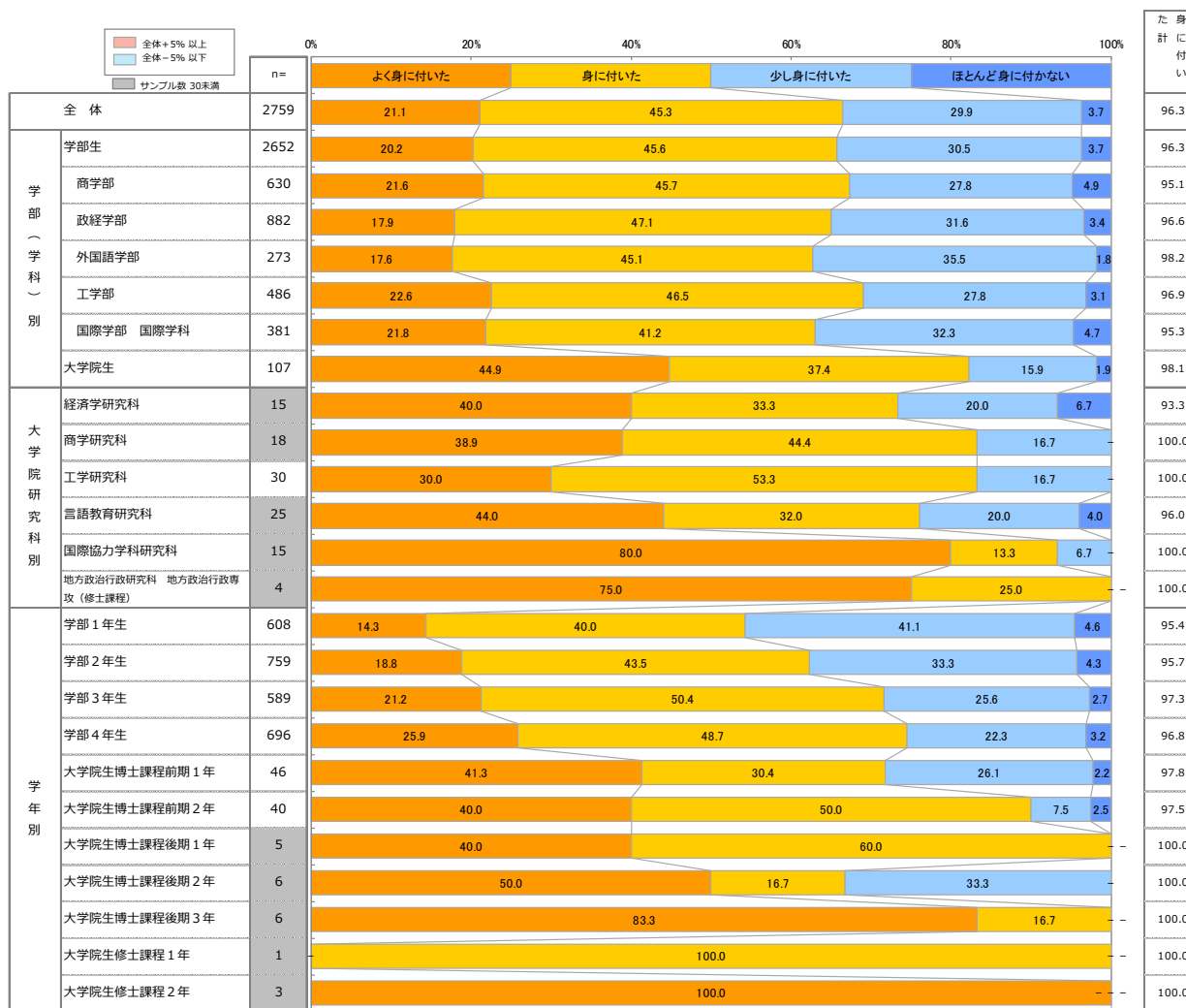
- ・専門分野に関する知識・技能の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.3%に達し、「よく身に付いた」は19.4%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」がおおむね95%以上。
「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部（25.6%）、工学部（24.9%）が特に高い。
大学院生は「身に付いた計」が98.1%に達し、「よく身に付いた」が37.4%となった。
- ・学年別では、学部生で1年生から2年生に上がる際、「よく身に付いた」が14.6%から20%近くのスコアとなる。



情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力

Q24.情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力は身に付きましたか。(SA)

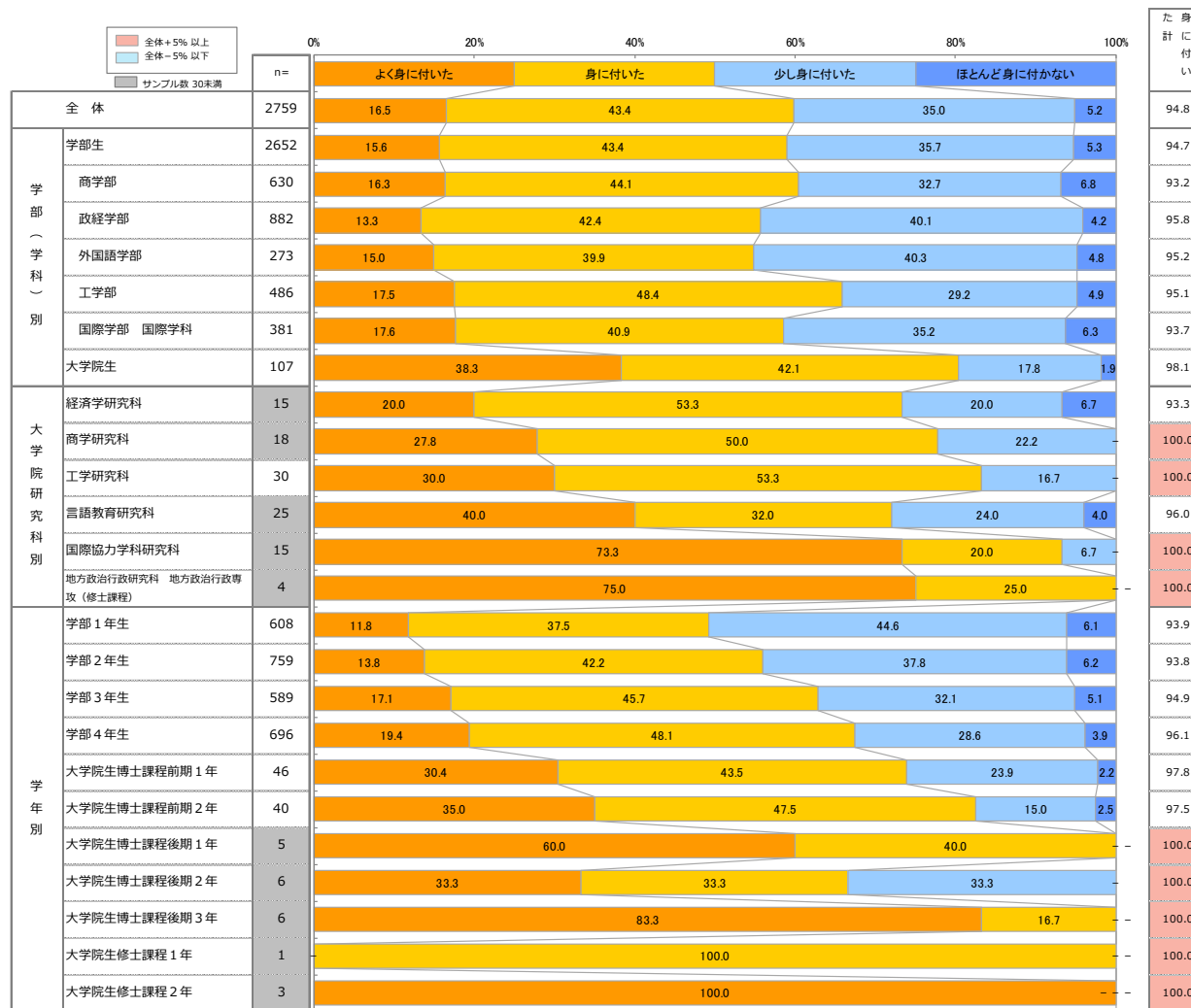
- ・情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.3%に達し、「よく身に付いた」は21.1%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」が95%以上。「よく身に付いた」をみると、学部生では工学部（22.6%）、国際学部 国際学科（21.8%）、商学部（21.6%）で20%を超える。大学院生は「身に付いた計」が98.1%に達し、「よく身に付いた」が44.9%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力

Q25.物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力は身に付きましたか。(SA)

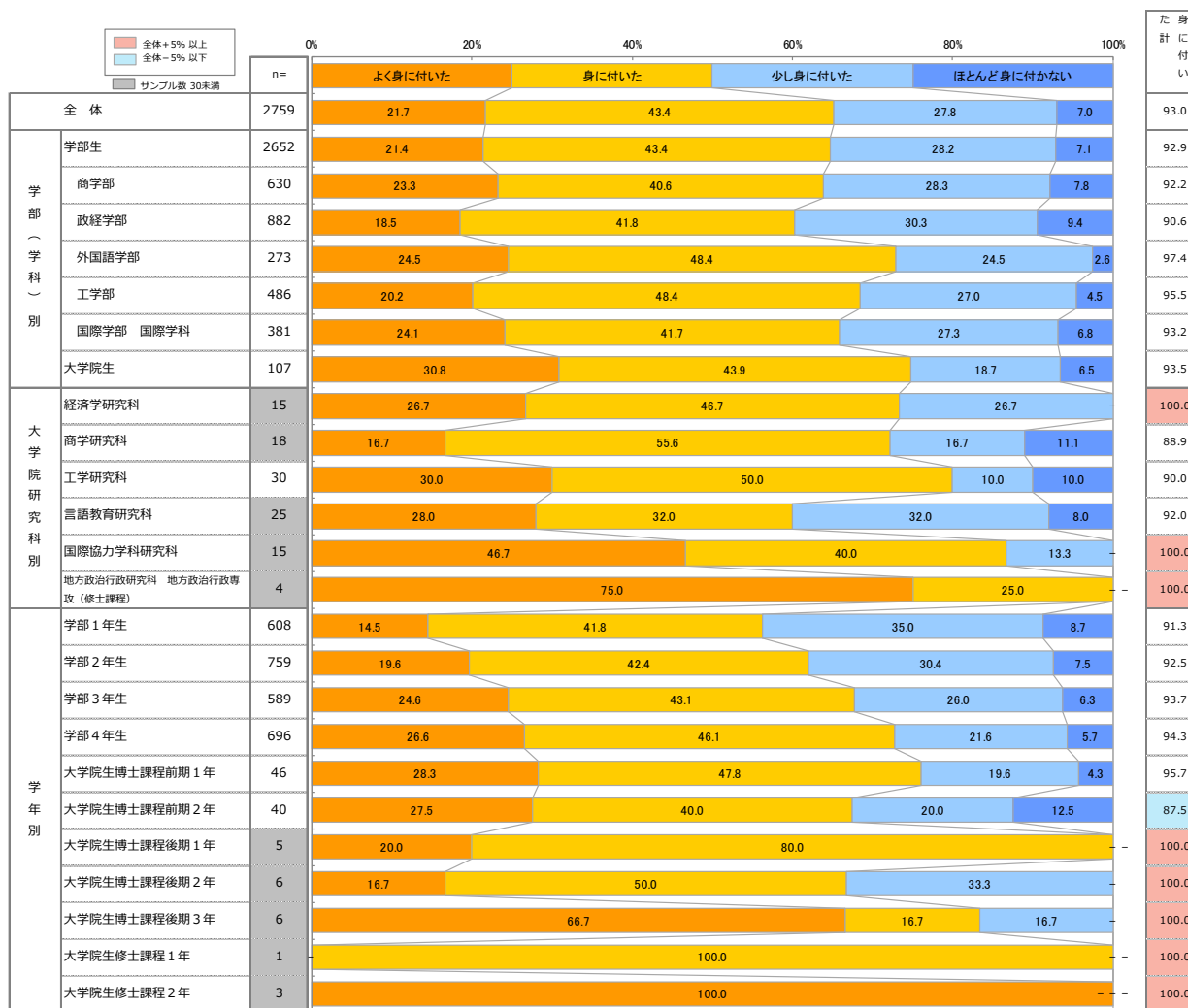
- ・物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の94.8%に達し、「よく身に付いた」は16.5%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」が90%以上。「よく身に付いた」をみると、学部生では政経学部が13.3%と最も低い。国際学部 国際学科（17.6%）、工学部（17.5%）が同水準で比較的高い。大学院生は「身に付いた計」が98.1%に達し、「よく身に付いた」が38.3%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



他の人と協力して物事を進めていく力

Q26.他の人と協力して物事を進めていく力は身に付きましたか。(SA)

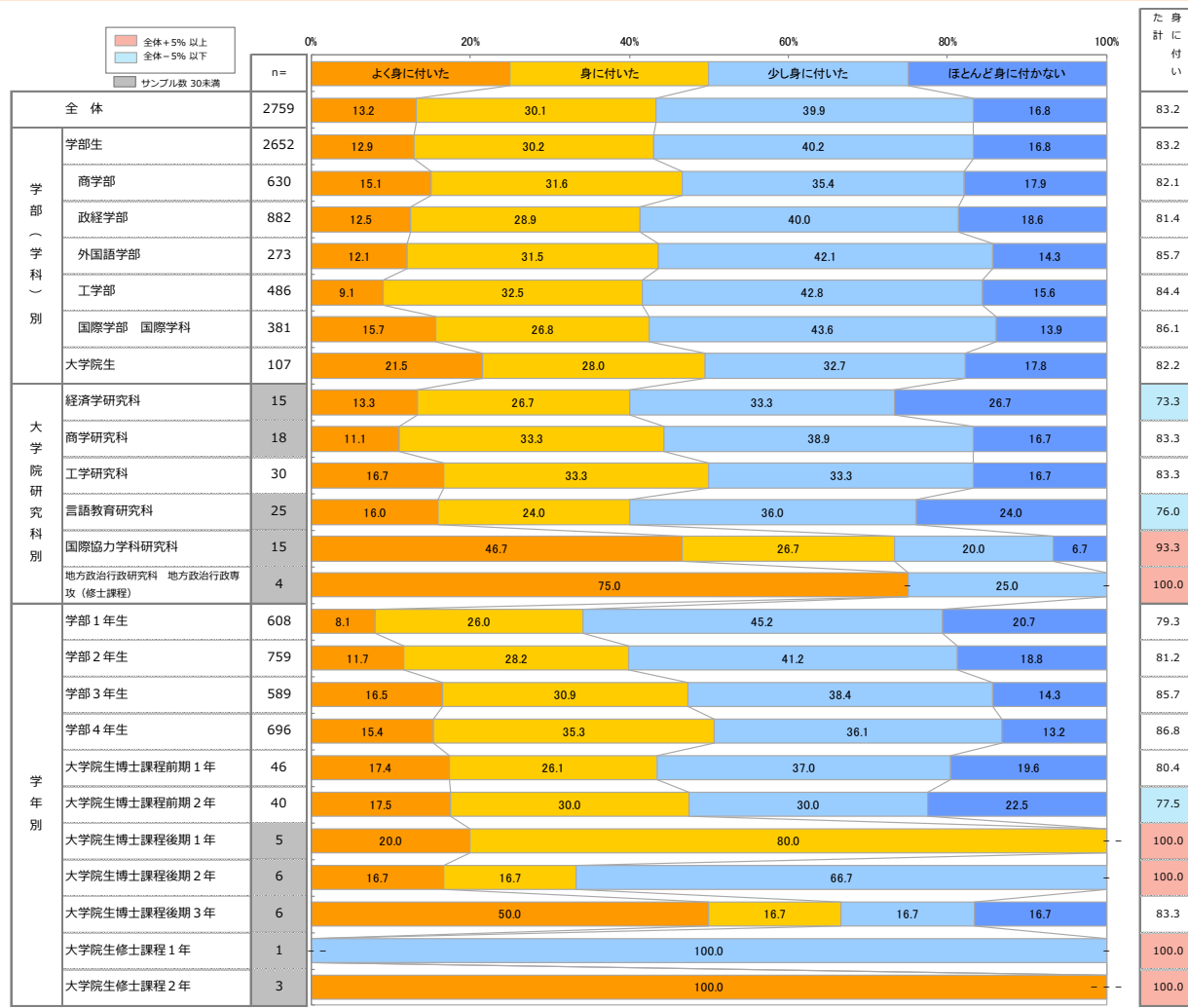
- ・他の人と協力して物事を進めていく力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の93.0%に達し、「よく身に付いた」は21.7%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」が90%以上。「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部（24.5%）、国際学部 国際学科（24.1%）、商学部（23.3%）、工学部（20.2%）が20%を超えた。大学院生は「身に付いた計」が93.5%に達し、「よく身に付いた」が30.8%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



必要な場合のリーダーシップを発揮できる力

Q27.必要な場合のリーダーシップを発揮できる力は身に付きましたか。(SA)

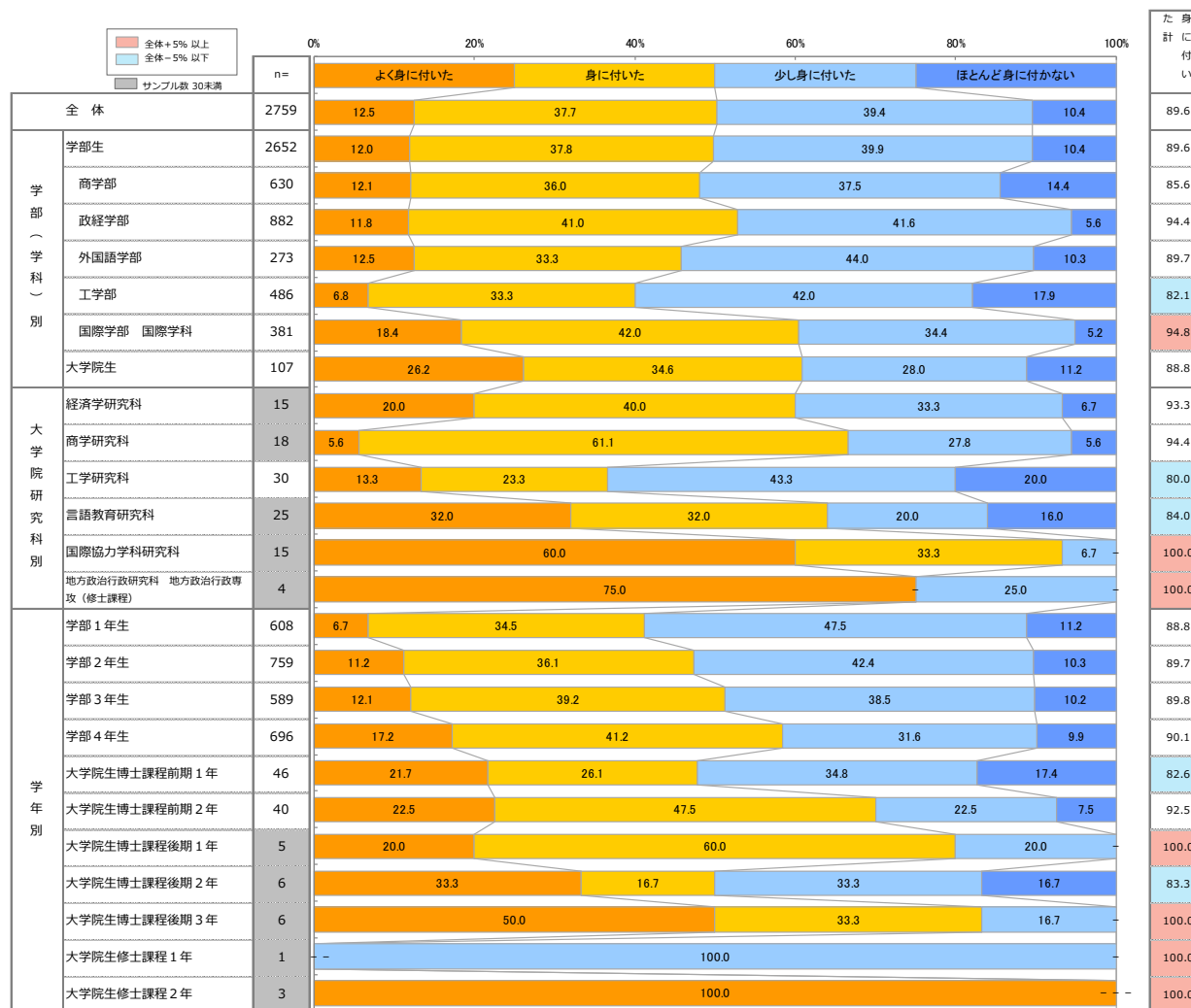
- 必要な場合のリーダーシップを発揮できる力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の83.2%に達し、「よく身に付いた」は13.2%となった。
- 学部別では、各学部で「身に付いた計」は80%台のスコア水準。「よく身に付いた」をみると、学部生では国際学部 国際学科（15.7%）、商学部（15.1%）が他学部と比較して高め。なお、工学部では9.1%。各学部の中で最も低い。大学院生は「身に付いた計」が82.2%に達し、「よく身に付いた」が21.5%となった。
- 学年別では、学部1年生（8.1%）から3年生（16.5%）までは学年が上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。4年生（15.4%）は3年生のスコアと同水準。



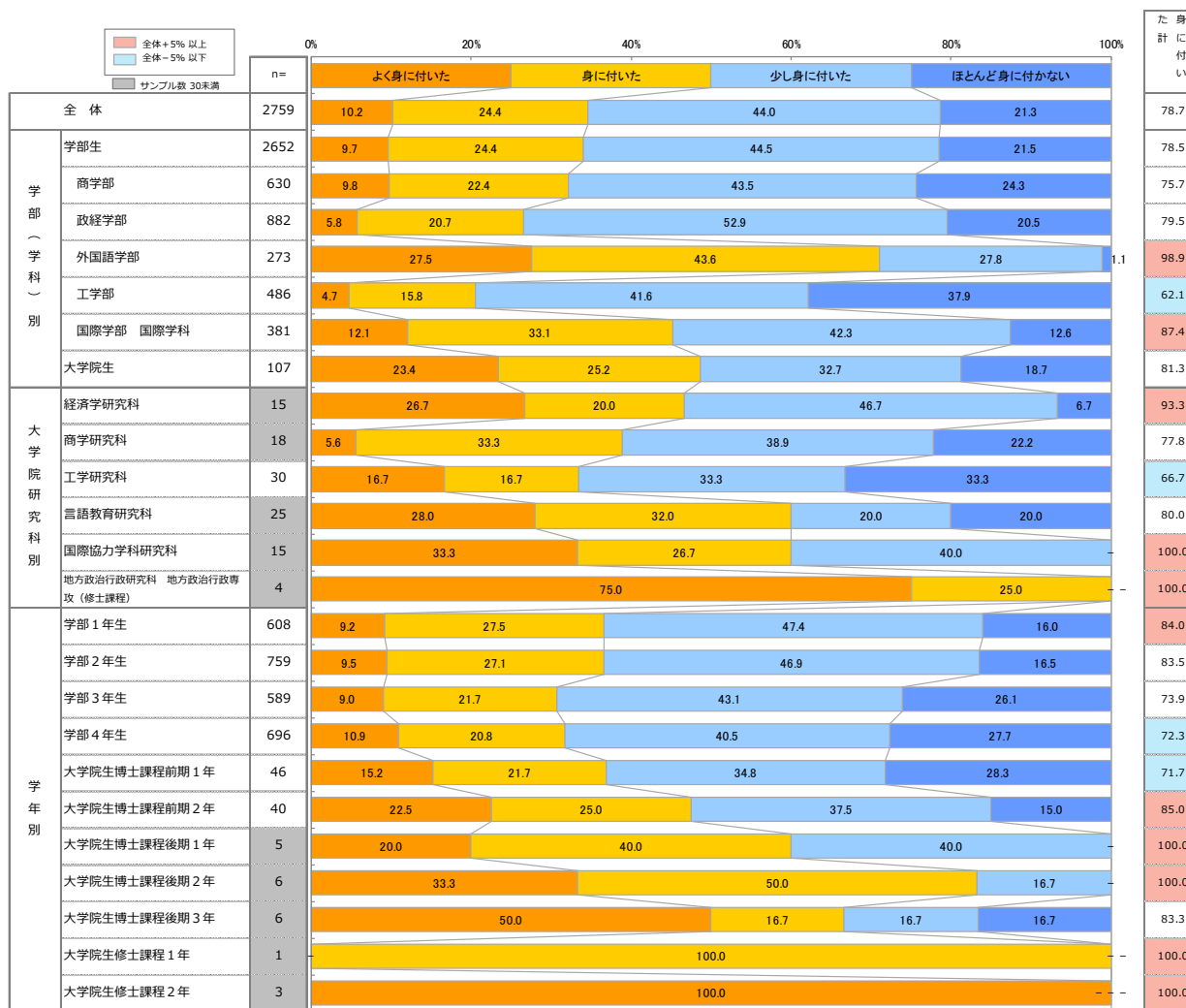
社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力

Q28.社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力は身に付き了吗。(SA)

- ・社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力の「身に付いた計(よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた)」は全体の89.6%に達し、「よく身に付いた」は12.5%となった。
- ・学部別では、国際学部 国際学科と政経学部で「身に付いた計」が90%以上と高い。工学部は82.1%と最も低い。「よく身に付いた」をみると、学部生では国際学部 国際学科が18.4%と最も高い。大学院生は「身に付いた計」が88.8%で、「よく身に付いた」が26.2%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



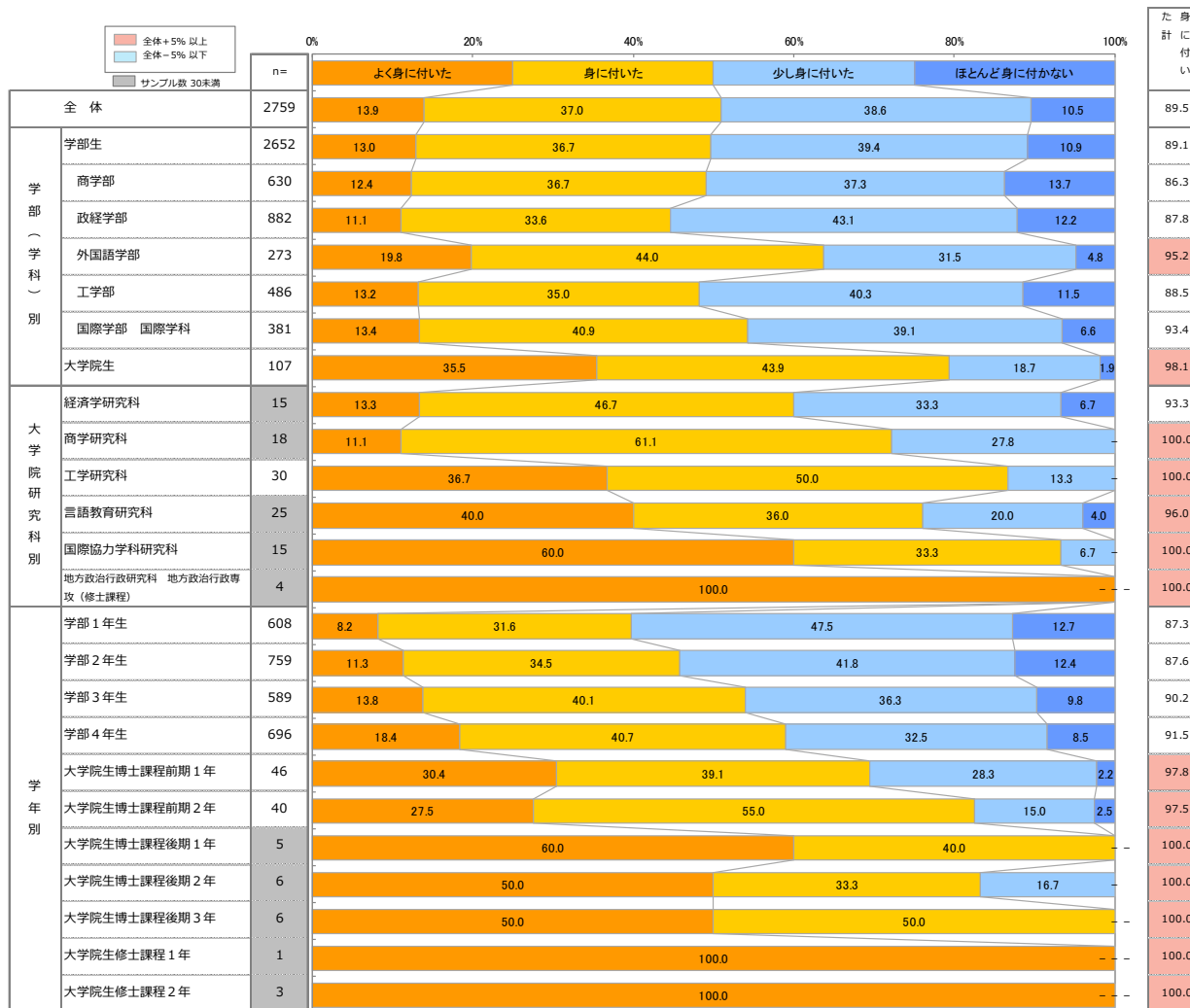
- ・外国語の運用能力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の78.7%となり、「よく身に付いた」は10.2%となった。
- ・学部別では、外国語学部で「身に付いた計」が98.9%に達し、国際学部 国際学科が87.4%で続く。「よく身に付いた」をみると、外国語学部で27.5%と特に高い。
- ・大学院生は「身に付いた計」が81.3%で、「よく身に付いた」が23.4%となった。
- ・学年別では、「よく身に付いた」は学部生の中では4年生が10.9%と最も高い。



学修した内容をまとめて、それを発表する力

Q30.学修した内容をまとめて、それを発表する力は身に付きましたか。(SA)

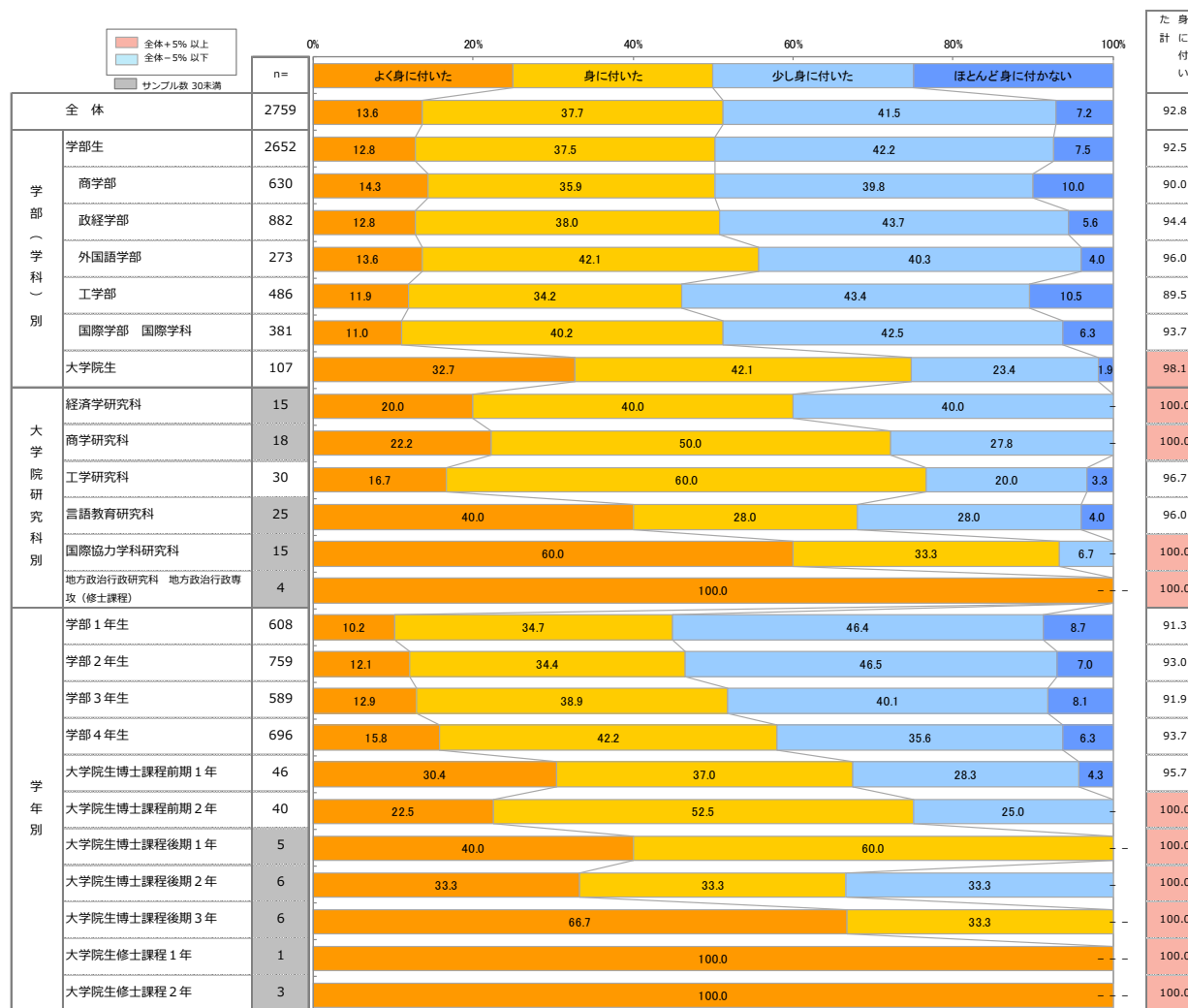
- 学修した内容をまとめて、それを発表する力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の89.5%に達し、「よく身に付いた」は13.9%となった。
- 学部別では、外国語学部（95.2%）、国際学部 国際学科（93.4%）で「身に付いた計」が90%以上。「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部が19.8%と最も高い。大学院生は「身に付いた計」が98.1%（全体より+9pt）で「よく身に付いた」が35.5%（全体より+22pt）となった。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



表現すべき内容を文章にして書ける力

Q31.表現すべき内容を文章にして書ける力は身に付きましたか。(SA)

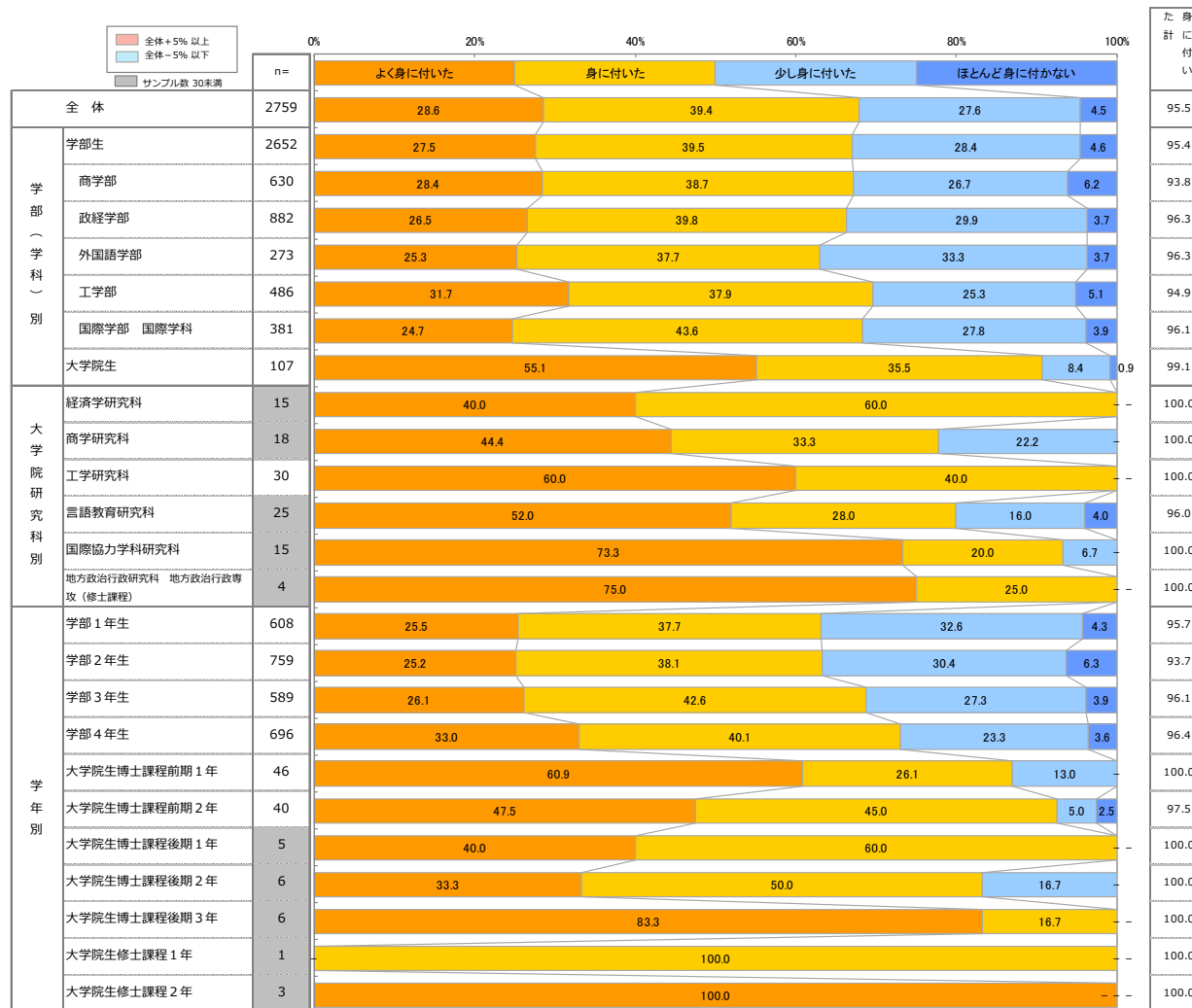
- ・表現すべき内容を文章にして書ける力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の92.8%に達し、「よく身に付いた」は13.6%となった。
- ・学部別では、「身に付いた計」は、ほとんどの学部で90%以上。
「よく身に付いた」をみると、学部生では商学部が14.3%と最も高いが学部間での差はさほどない。
大学院生は「身に付いた計」が98.1%（全体より+5pt）で「よく身に付いた」が32.7%（全体より+19pt）となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



パソコンで文書や資料を作成する力

Q32.パソコンで文書や資料を作成する力は身に付きましたか。(SA)

- ・パソコンで文書や資料を作成する力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の95.5%に達し、「よく身に付いた」は28.6%となった。
- ・学部別では、どの学部でも「身に付いた計」が90%半ばから後半のスコア水準。「よく身に付いた」をみると、学部生では工学部が31.7%と最も高い。大学院生は「身に付いた計」が99.1%に達し、「よく身に付いた」が55.1%と半数以上に達した。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がり、4年生では30%を超える。

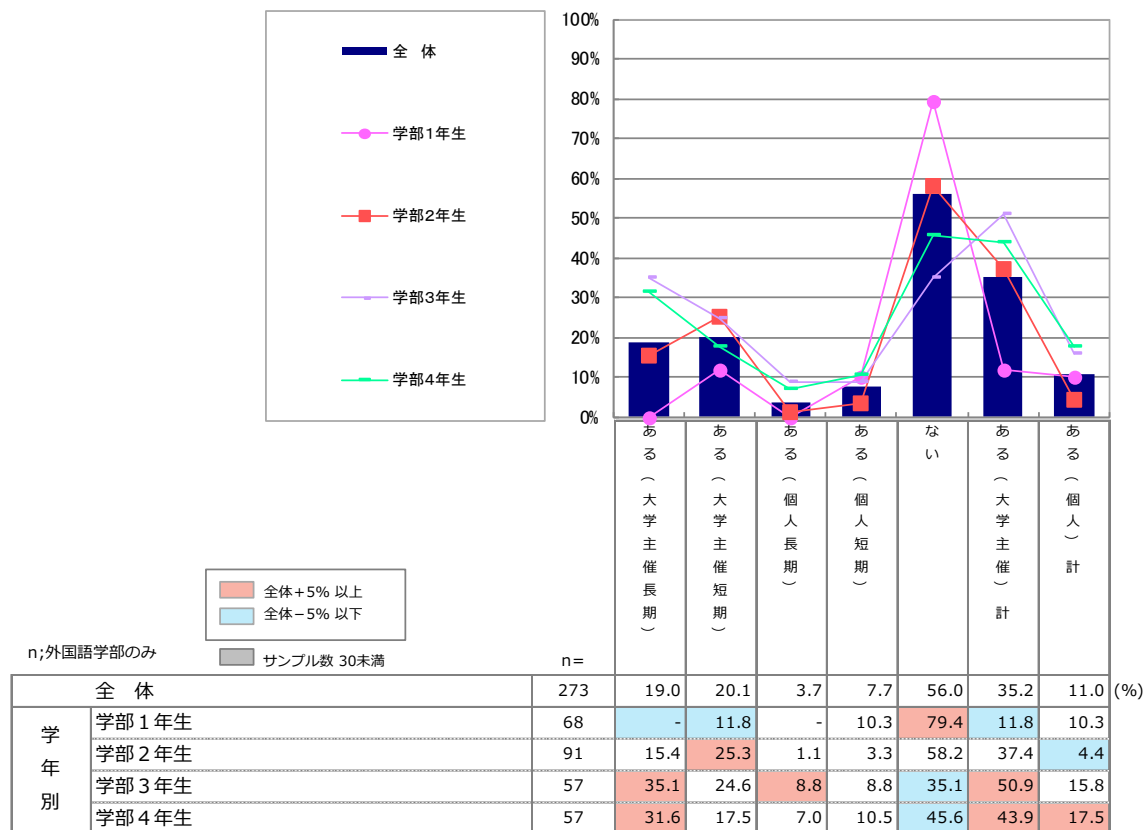


学部設問項目

海外での語学研修経験

Q33.海外で語学研修をしたことがありますか（入学以来本年度3月までの実施予定も含む）。（MA）
（外国語学部生のみ）

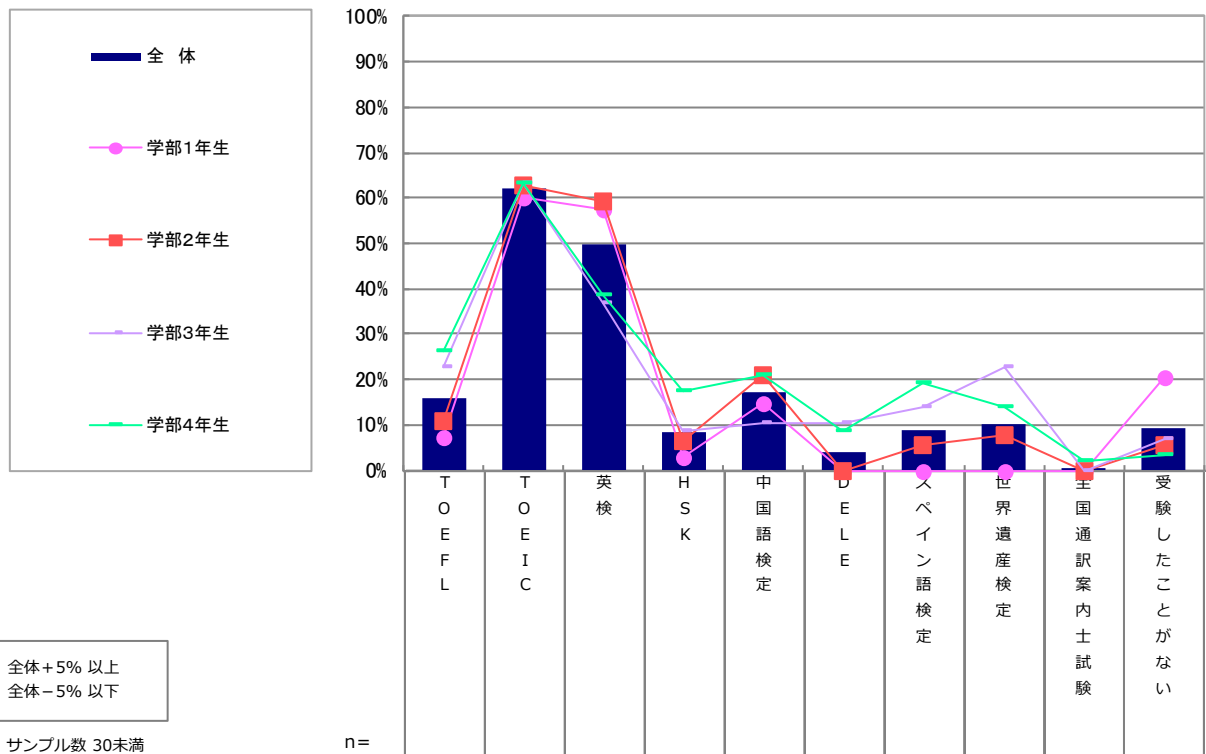
- ・外国語学部生の海外での語学研修経験は「ない」が56.0%と半数以上。「ある（大学主催）」計は35.2%と「ある（個人）」計（11.0%）を上回る。
- ・学年別では、1年生は「ある（大学主催短期）」（11.8%）、「ある（個人短期）」（10.3%）が10%以上。長期の語学研修経験は「大学主催」「個人」いずれも0%。語学研修経験としては、長期より短期の割合が高い。2年生は「ある（大学主催短期）」（25.3%）、「ある（大学主催長期）」（15.4%）が10%以上と、大学主催の語学研修経験の方が個人の語学研修経験よりも多い。3年生も「ある（大学主催長期）」（35.1%）、「ある（大学主催短期）」（24.6%）が20%以上と、大学主催の語学研修経験の方が個人の語学研修経験よりも多い。4年生も「ある（大学主催長期）」（31.6%）、「ある（大学主催短期）」（17.5%）と、大学主催の語学研修経験の方が個人の語学研修経験よりも多い。なお、長期と短期を比較すると、長期（大学主催：31.6%/個人：7.0%）の方が、短期（大学主催：17.5%/個人：10.5%）を上回っている。※この傾向は3年生でも同様。



語学検定試験受験の有無

Q34.語学に関する検定試験を受検したことがありますか。
 (MA) (外国語学部生のみ)
 ※以下の検定試験を受検したことがない方は、何もチェックせずに、次に進んでください。

- ・受検経験がある語学検定試験は「TOEIC」が62.3%、「英検」49.8%と英語の検定が上位にあがり、「中国語検定」が17.2%で続く。
- ・学年別でみると、「TOEIC」はどの学年でもいずれも60%台の受験経験率となった。「英検」は1年生・2年生の方が、3年生・4年生よりも受験経験率は高い。
- ・「TOEFL」「スペイン語検定」「HSK」は学年が上がるにつれ、受験経験率も上がる。



n;外国語学部のみ

n=

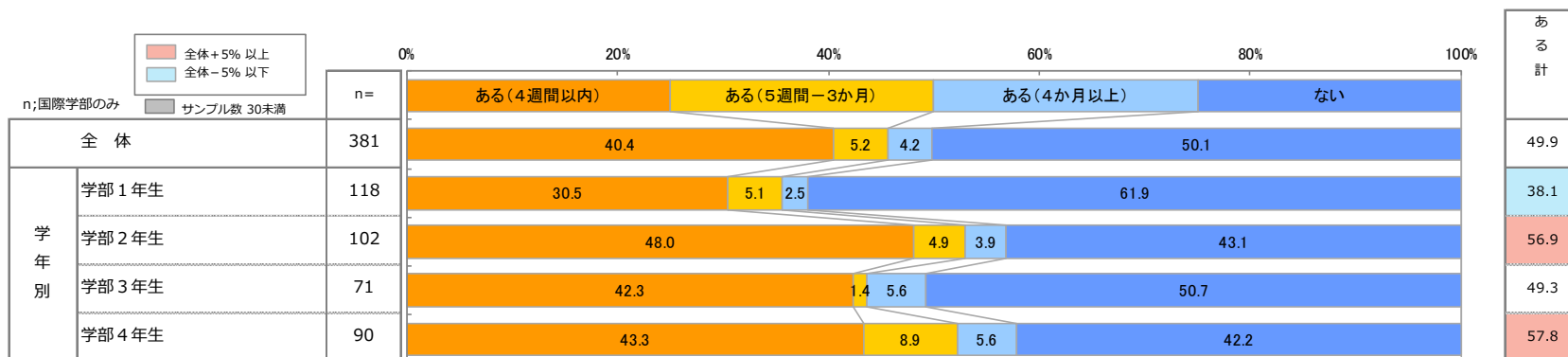
全体		273	15.8	62.3	49.8	8.4	17.2	4.0	8.8	10.3	0.4	9.2
学年別	学部1年生	68	7.4	60.3	57.4	2.9	14.7	-	-	-	-	20.6
	学部2年生	91	11.0	62.6	59.3	6.6	20.9	-	5.5	7.7	-	5.5
	学部3年生	57	22.8	63.2	36.8	8.8	10.5	10.5	14.0	22.8	-	7.0
	学部4年生	57	26.3	63.2	38.6	17.5	21.1	8.8	19.3	14.0	1.8	3.5

全体+5%以上
 全体-5%以下
 サンプル数 30未満

海外研修参加の有無

Q35.海外研修に参加したことがありますか、あるいは3月までにする予定がありますか。(海外短期研修・語学留学、海外ゼミ合宿、個人研修奨学金、長期留学、海外インターンシップ等)
(SA) (国際学部生のみ)

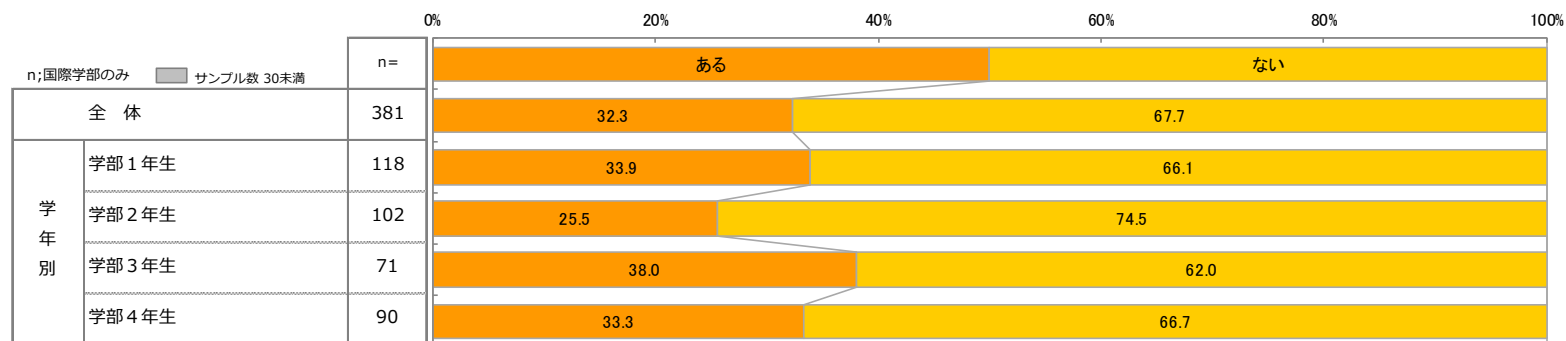
- ・国際学部 国際学科生の海外での研修参加経験は「ある」計が49.9%と、「ない」の50.1%とほぼ半々となった。「ある(4週間以内)」が40.4%と、4週間以内の比較的短い期間での海外研修参加がほとんど。
- ・学年別でみると、1年生は「ない」が61.9%。2年生と4年生では「ある」計の方が「ない」を上回っていた。(3年生は「ある」計と「ない」がほぼ半々)
- ・4週間以内の比較的短い期間での海外研修の参加が多い傾向は、どの学年でも共通している。



国内、国外におけるボランティア・NGO活動参加の有無

Q36.入学以来、国内、国外におけるボランティア活動やNGO活動に参加したことがありますか。(SA)
(国際学部生のみ)

- ・国際学部 国際学科生の国内、国外におけるボランティア・NGO活動参加経験は「ある」が32.3%。
- ・学年別に参加経験率をみると、3年生が38.0%（全体より+6pt）で最も多い。



学修行動調査結果 に対する所見

大学全体

1. 本年度の授業の中での経験について

定期的に小テストやレポートを課す授業（94.5%）、Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業（85.1%）及び自分の考え方や課題を発表する授業（79.9%）は多いが、学生同士が議論する授業（66.6%）、教員への質問・意見を述べられる授業（63.7%）、及び演習、実験、実習、フィールドワークなどの体験授業（52.0%）は50%から60%程度にとどまるが、学生が主体的に関わる授業を体感する意義は大きい。

アクティブ・ラーニングは、大学全体の「教育課程編成・実施の方針」における教育方法に掲げられ、課題発見解決能力を養成するための授業形態として重要であり、積極的に導入することが必要であると考えている。これにより、学生の授業参加が求められ、そのために学生は準備学修が不可欠となる。講義科目であっても授業での発問・質問・発表などの時間を設けることで、学修成果は伸びるものとする。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

授業や課題の情報収集は、図書館（63.4%）よりもインターネット（91.9%）が多い。また、修学相談は、学生間の交流の中で進める（77.8%）傾向が強く、教職員と相談をする者（37.4%）もいる。

情報化社会の進展に伴い、情報収集は、図書館からインターネットの活用へと移行していく傾向は今後も続くと見込まれる。インターネットでの情報収集能力が求められるとともに、多様な情報の中から適切な情報を取捨選択する能力も必要となる。また、修学相談においては、学生が教職員に相談しやすい環境や工夫も考えていく必要がある。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

学生は、週当たり、13科目以上（39.2%）の授業に出席し、アルバイトを19時間以上（41.6%）、趣味活動を19時間以上（34.0%）する。部活動やサークルに所属する者はその活動を19時間以上（19.0%）を行う。しかし、授業時間以外の学修（45.5%）・読書（35.6%）は1～3時間にとどまる。

単位制度の実質化により授業外の学修時間の確保が求められている中、週当たりの予習復習が1～3時間程度では十分とはいえない。また中には全くしない学生もいる。アルバイトの影響もうかがえるが、今後、学修成果を積み上げていくためには、さらに授業方法などの工夫により、予習復習を促す仕組みを強化する必要がある。また読書時間が少ない点については、今後、年度比較の中で分析していきたい。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

学修成果は、①教養力96.2%、②専門能力96.3%、③情報収集能力96.3%、④課題発見能力94.8%、⑤協働力93.0%、⑥リーダーシップ能力83.2%、⑦課題解決能力89.6%、⑧外国語運用能力78.7%、⑨発表力89.5%、⑩文章表現能力92.8%、⑪情報スキル能力95.5%という結果で、すべての項目について約80%以上と高い水準にある。この設問は、各学部・研究科における「卒業認定・学位授与の方針」で謳う到達目標で構成している。従って、大学全体として、学修成果は、概ね到達目標に達しているものといえる。

1. 本年度の授業の中での経験について

質問項目「自分の考えや課題を発表する授業」や「定期的な小テスト・レポートのある授業」、「Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業」では「よくあった」「ときどきあった」（以下「肯定的回答」と略）が8割弱から9割であることから、多くの教員が形成的評価（授業の過程で学習者一人ひとりが到達目標に達しているかどうかを確認する評価）を実施し、かつ学生の主体的学びを促す取り組みをしている。その一方で、「教員への質問・意見を述べたことの経験」での肯定的回答は6割弱と低調で、学生自身による主体的学びの喚起が今後の課題と思われる。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

「授業や課題のため」の情報収集の方法で、「図書館で資料・文献を調べた」の肯定的回答が65.6%に対して、「インターネットでの情報収集」は87.9%と高くなっている。公的データや論文等の多くがウェブで公開されていることの反映でもあるが、そうした公的機関以外のウェブページ利用を多用している懸念もある。

また「他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験」の肯定的回答が8割弱を示しているが、頻度と併せて「どの程度の時間を他の学生と一緒に勉強したのか」も今後の視点として重要と思われる。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

週当たりの「授業時間以外での学修時間」では、0時間が18.3%、1～3時間が46.7%で、3時間以下の者が65.0%を占める。尺度が若干異なるため厳密な意味での比較はできないが、「東大CRUMP調査」（2007）での0時間が10.9%、1～5時間が57.5%との結果や「NIER調査」（2014）での0時間が12.0%、1～5時間が58.4%との結果とほぼ同様の結果を示している。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

教養や専門分野に関する知識、情報収集能力、パソコンでの文章作成能力等は概ね6割程度の者が身についたとしている。その一方で、社会が抱える課題を理解する能力や学修によって身につけた事柄を文章化し発信する能力、外国語の運用能力といったこれからの社会で強く求められる能力の獲得は5割程度にとどまり、とりわけ「外国語の運用能力」に至っては32.2%と低調である。

2018年12月-2019年2月にWEBアンケートを実施し、政経学部では882人（1年生：182人、2年生：275人、3年生：178人、4年生：247人）から回答を得た。なお、回答者は在籍学生のおよそ28%であった。

1. 本年度の授業の中での経験について

- ・「自分の意見や課題を発表する授業」は75%が経験している。
- ・一方で、「教員への質問」は58%、「議論」は56%とやや低めである。さらに演習・実習等「体験型授業」を経験した学生は34%と少ない。学部の特性を考慮しつつも、学生の参加を促す授業づくりが課題であると思われる。また、令和元（2019）年度より開始した2年ゼミナールの受講促進を開始している。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

- ・「他の学生と話す」「図書館での調べもの」に関しては経験者が70%に達し、「ネットでの情報収集」も90%を超える学生が行っている。
- ・一方で、「教職員に相談」をした学生は、30%程度であった。授業時間外では、課題を独力でもしくは学生同士で解決しようとする姿勢がうかがえる。オフィス・アワーの活用などを促していきたい。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

- ・「週当たりの出席科目数」は9-13科目の学生が最も多く75%である。
- ・「授業以外での学修時間」は「1-3時間」が51%、「全くない」が15%であった。「授業と関連しない読書時間」は「1-3時間」が最も多く36%、「全くない」は28%であった。授業にはよく出席しているものの、授業外の学修時間は短い傾向がある。
- ・学修以外の活動では、「部活・サークル」活動をしていない学生が55%に上る一方で、「アルバイト」に関しては「週19時間以上」と答えた割合が最も高く42%であった。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

- ・すべての質問項目で80%以上が「身についた」と回答している。とくに、「一般的な教養」「専門分野」「情報収集」「課題発見・解決」「他人との協力」の項目では90%以上である。
- ・ただし、「リーダーシップ」「社会が直面する課題の理解」「外国語運用能力」「文章力」「パソコンでの資料作成能力」の項目では「少し身についた」の割合が高く、今後の課題である。

1. 本年度の授業の中での経験について

外国語学部では「自分の考えや課題を発表した」が92.3%、「教員への質問・意見を述べた」が80.2%、「学生同士が議論した」が74.4%と、それぞれ全体の平均を大きく上回った。「定期的な小テスト・レポート」は98.9%、「Blackboard、E-mail等を活用した授業」は85.7%で、全体平均とほぼ変わらない。「演習、実験、フィールドワーク等体験授業」は全体の平均52.0%を下回る、47.6%であった。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

「他の学生と授業内容について一緒に勉強した」は85.3%、「教職員への学修に関する相談」は46.9%で、全体の平均を上回る高い数値である。「インターネットでの情報収集経験」は95.2%で全体平均91.9%とほぼ変わらない。「課題の為に図書館で資料・文献を調べた」は58.6%で、全体平均63.4%を下回る。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「週当たりの授業出席科目数」は最も多い「13科目以上」が36.5%、「週当たりの授業外学修時間」は最も多い「1~3時間」が43.6%、「週当たりの授業と関連しない読書時間」は最も多い「1~3時間」が34.4%で、それぞれ全体の平均よりやや下回る。「週当たりの部活動、サークル活動」は最も多い「19時間以上」が12.1%で、全体平均19%を下回る。「週当たりのアルバイト就労時間は最も多い「19時間以上」が45.8%で学部で最も高い数値である。「個人的な趣味活動時間」は最も多い「19時間以上」26.0%で、全体平均をやや下回り、アルバイトをする学生が多い。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

全体の平均よりもやや上回った項目は「必要な情報を得る力」98.2%、「課題を発見し、解決の方向性を考える」95.2%、「他と協力して物事を進める」97.4%、「必要な場合のリーダーシップを発揮する」85.7%、および「パソコンで文書や資料を作成する」96.3%であった。上回った項目は「学修した内容をまとめて、発表する」95.2%、「文章にして書ける」96.0%。中でも「外国語の運用能力」は全体平均78.7%に対し、98.9%で最も高い数値である。一方で、平均をやや下回った項目は「一般的な教養」95.2%、「専門分野の知識・技能」99.3%である。

5. 学部・研究科設問項目

外国語学部の設問「海外での語学研修経験」は、「ある計」が35.2%で、大学主催長期19.0%、大学主催短期20.1%、個人長期3.77%、個人短期7.7%であった。3年時の「大学主催留学経験がある」は50.9%となっている。「語学検定試験」はTOEICが62.3%、英検49.8%、中国語検定17.2%であった。TOEICはどの学年も受験経験率は60%を上回る。一方英検は1・2年生の方が3・4年生よりも受験率が高い。

1. 本年度の授業の中での経験について

学生同士が議論する授業があった（全体66.6%に対し工学部72.2%）、および演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業があった（全体52.0%に対し工学部92.2%）については特徴的に高い数値を示しており、学部の特性が表れている。

一方、自分の考えや課題を発表する授業があった（全体79.9%に対し工学部76.7%）、教員への質問・意見を述べたことの経験があった（全体63.7%に対し工学部61.7%）というように、積極性が必要な経験について、若干低い値を示している点が課題であり、学生のモチベーションをあげて積極性を引き出す工夫、誘導が必要と考える。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験（全体63.4%に対して44.7%）について全体と比較しても大きな差が出ている。学部の特性からもPCを用いたインターネットによる情報収集に偏っていることが明らかである。情報の質や信憑性については各学科ともリテラシーの授業で触れているが、加えて、図書館の利用を促す授業や課題の工夫についての検討が必要と考える。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

授業時間以外での授業関連学修・経験時間について、「1～3時間」が38.9%で最も多い。全くしない14.8%と合わせると、5割以上の学生の学修時間は一週間に3時間未満ということになる。これは他学部と同様の傾向ではあるが、予習・復習およびレポート課題等に充分に取組める時間ではない。一方、19時間以上取り組んでいる学生も13%存在し、格差は大きい。

読書時間については、工学部で「19時間以上」が11.9%で他学部に比べて高い点の特徴的であるが、ゼロの学生も32.7%で他学部に比べて多い。部活、サークル、アルバイト、については他学部と比較して少なく、趣味活動については比較的多く時間を費やしている傾向がみられる。学修に費やす時間と趣味等に費やす時間の相関をみる必要があるが、学修時間の確保は急務と考える。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

専門分野に関する知識・技能について、「良く身についた～少し身についた」の身についた計は97.5%で全体平均（96.3%）と大差ないが、「良く身についた+身についた」のみの合計は74.7%で5学部の中で最も高い値を示した。情報収集力や物事の課題発見とその解決についてもこれと同様の結果となっている。一方で、リーダーシップを発揮できる力、外国語の運用能力については全学部の中でも低い値を示している。

この結果から現状、工学部の学生はディプロマポリシーに掲げている専門知識やその運用、他者との協働等に関する項目についてはかなり身についたと感じていることがわかる。一方、外国語の運用能力を備えたグローバルなコミュニケーション能力および、チーム協働の中でのリーダーシップ能力、広い視野に立った社会的な課題に対する解決能力については不足していると感じている学生が多い。さらに各学科および学科を超えたプロジェクト型の授業や課題設定の工夫により、このような能力の向上を目指すことが今後の課題と考える。

1. 本年度の授業の中での経験について

自分の考えや課題を発表する授業について「あった」が86.1%、学生同士が議論する授業も「あった」が78.2%と高かったが、この点はコミュニケーション力、実践力を重視する国際学部のディプロマポリシーにそった授業が行われているものと評価したい。教員への質問や意見の有無については68.8%、演習など体験授業は54.1%と落ちるが、総じて教員・学生間のコミュニケーションを重視する双方向的な授業が行われていると評価できる。一方、BlackboardやEmailの活用率が低いが、この点、すでに今年度の学部FDで2度にわたりBlackboardの活用をテーマに研修を行っており、改善を図っている。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

「授業内容など他の学生と話す」率が78.5%あるのに対し、「教員に相談する」が39.1%と低い。また課題についてもネットなどで解決を図るものが91.6%であるのに対して図書館を利用するものは63.3%とやや下がる。教員が授業時間外でもコミュニケーションを取り図書館の利用も含め、学修について積極的に助言していくことが期待される。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「13科目以上出席している」率や授業時間外学修「1～3時間」など国際学部が一番高く、学修意欲が高い学生が多くいることがうかがえるが、授業時間外学修が「全くない」も18.4%と最も多く、この点改善を図る必要がある。授業と関連しない読書時間や部活・サークル活動参加時間も国際学部が一番長かったが、国際学部の学生の幅広い関心やTVT（拓殖ボランティアチーム）などのボランティア活動が盛んなことも影響しているだろう。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

リーダーシップを発揮する項目以外すべての項目について「身についた」が90%を越えており、うれしい結果だった。リーダーシップについても86.1%であり、また「よく身についた」率は他学部より一番高く、評価できる結果である。また情報を得る力、課題を解決する力、他人と協力する力、社会の課題を理解する力、外国語運用力、学修内容を発表する力などが他学部に比して高かったが、これらはいずれも国際学部が3ポリシーに掲げている能力であり、国際学部での学びについて学生が成果を感じていることを表している。この結果を励みに今後も学生指導に取り組んでいきたい。

5. 学部・研究科設問項目

海外研修参加については「ある」と「ない」がほぼ半々であった。4週間以内の短期研修が多い点については経済的事情など関係するかもしれない。

国内・国外におけるボランティア・NGO活動参加については32.3%が参加していた。ボランティア活動に力を入れようとしている国際学部としてはより高い参加率になるよう、今後、FD等を通して学生のボランティア参加を促す活動を進めていきたい。

1. 本年度の授業の中での経験について

平成30（2018）年12月-令和元（2019）年2月にWEBアンケートを実施し、15名より回答を得た。

「考えや課題を発表」「教員への質問」は全員（100%、選択肢のうち身についたとする回答、以下同じ）、「定期的な小テスト、レポート」93%であり、少人数クラスによる講義、演習を展開していることの効果が発揮されている。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

「図書館の利用」100%、「他の学生との話し合い」「教職員への相談」80%であり、教員や仲間とのコミュニケーションは密接である。但し、上記から逆算すると3名（20%）の学生は教員との接触が少なくい。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

出席科目数は「7-8科目」が33%であり修了要件に応じたものとなっている。なお、学生の出席状況については、教員間の意見交換により常時モニターしている。

授業以外の勉強時間については「6時間以下」が53%であり、少ないように思われる。勉強以外の読書時間については「3時間以下」が47%であった。アルバイトは「13時間以上」が53%であった。留学生が多く、学資や生活費のためにアルバイトをしているようである。今後、実態をさらに調べる必要があるが、講義外の勉強をさらに促していきたい。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

「協力して物事を進める力」「文章力」「パソコン力」については全員（100%）が向上している。また、「専門分野の知識」「情報収集力」「問題発見力」「社会課題の理解力」「外国語の運用能力」「発表力」についても93%が向上したと回答している。

本研究科では、講義（特論科目）を通して、専門知識を学修させる一方で、専攻ごとに院生を研究室に配属し論文指導を行うことから、研究能力を育成している。これらの組み合わせにより、専門知識、語学力、ITスキルばかりでなく、課題を把握し、そこから研究を展開していく力やプレゼン力が育成されている。本研究科のCP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）が目指す所要の学修成果が得られている。

1. 本年度の授業の中での経験について

商学研究科における授業の中での経験に関する質問については、「自分の考えや課題を発表する授業有無」(Q6)、「教員への質問・意見を述べたことの経験有無」(Q7)、「学生同士が議論する授業有無」(Q8)、「定期的な小テスト・レポートのある授業有無」(Q10)、「Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業有無」(Q11)の5項目において、肯定的な回答の割合が大学院生平均を下回っていた。このことは、全ての授業ではないものの、一部において、教員が一方的に話すだけの形式の授業が存在することをうかがわせるものである。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

授業時間外の学生の学修態度に関する質問については、「他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験有無」(Q12)、「教職員への学修に関する相談経験有無」(Q13)、「授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験有無」(Q14)、「授業や課題のためインターネットでの情報収集経験」(Q15)の4項目において、肯定的な回答の割合が大学院生平均を上回っていた。特にQ12に対する肯定的な回答は、大学院生平均を10ポイント以上も上回っており、全体的に商学研究科の学生の学修に対する意欲は高いと推察される。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

学生の学修等時間に関する質問については、「週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間有無」(Q17)では、「全くない」と回答する学生が複数名おり、一部モチベーションが行動につながらない学生が存在すると考えられる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

学修成果に関する質問については、「専門分野に関する知識・技能」(Q23)、「情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力」(Q24)、「物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力」(Q25)、「社会が直面する課題を理解する力」(Q28)、「学修した内容をまとめて、それを発表する力」(Q30)、「表現すべき内容を文章にして書ける力」(Q31)、「パソコンで文書や資料を作成する力」(Q32)の7項目において、肯定的な回答の割合が大学院生平均を上回っていた。そのうち、Q23、Q24、Q30、Q31、Q32については、「身に付いた」と回答した学生の割合が100%であり、極めて多くの学生が学習成果を実感していると推察される。一方で、「外国語の運用能力」(Q29)については、「身に付いた」と回答する学生の割合が大学院生平均を下回っているが、研究科間の語学科目の重要度の違いが影響していると思われる。

言語教育研究科

1. 本年度の授業の中での経験について（6問、4択）

「自分の考えや課題を発表する授業(25名)」「教員に質問したり意見を述べたりしたこと(24名)」「学生同士が議論する授業(23名)」「Blackboard、E-mail等を活用した受取・提出を行った授業(21名)」などでは、「あった(よくあった+ときどきあった)」との回答（かっこ内に記した人数）割合が全研究科平均を上回っている。

「定期的な小テスト・レポートのある授業(21名)」と、「演習、実験、実習、フィールドワークなどを通して体験する授業(16名)」の2項目は、研究科平均より下回っている。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について（4問、4択）

「授業や課題のためにインターネットで情報収集(25名)」は、全研究科で「あった」が100%となった項目である。「授業や課題のために図書館で資料・文献を調べた(24名)」は、研究科平均をかなり上回るものの、「よくあった」の割合がインターネット検索よりも少なくなっている。

「学修に関する教職員への相談(15名)」「授業内容について、他の学生と話合う・一緒に勉強する(20名)」は、研究科平均より下回っている。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について（5問）

「授業関連学修・経験時間」は、19時間以上11名、9～1時間12名、全くない2名とバラつきが大きいのが、全体としては研究科平均を上回っている。「授業と関連しない読書」は、3時間以下が14名であり、ほぼ平均並みであったが、13時間以上は2名と、長時間読書をする者の割合は他研究科より下回っている。「個人的な趣味活動」は、0～3時間10名、4～12時間9名、13時間～6名と分散していた。

「アルバイトや仕事」の時間については、0～3時間が1名と非常に少ない一方、19時間以上の学生が12名とほぼ半数である。時間数の多い回答に関しては、社会人学生の仕事の影響している可能性も考えられる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について（10問、4択）

身に付いた（よく身に付いた+身に付いた）力として高い回答が得られた項目としては、「専門分野に関する知識・技能」「PCで文書・資料を作成」（各20名）や「情報収集力やそこから必要な情報を得る力」「学修した内容をまとめて発表する」（各19名）などがあり、さまざまな分野で成果が評価されている。

一方、「ほとんど身に付かない、少し身に付いた」が相対的に高い項目としては、「必要な場合にリーダーシップを発揮する力(15名)」「他の人と協力して物事を進めていく力(10名)」などがあり、ともにあまり身に付かなかつたととらえられている。

1. 本年度の授業の中での経験について

自分の考えや課題を発表する授業は工学研究科でも実施しており、本学の標準に近い（全体97.2%に対して93.3%）、また教員への質問・意見を述べたことへの経験有無（91.6%に対して90.0%）も本学平均に近い。学生同士が議論をする授業については少し低い（全体80.4%に対して73.3%）。これについては、コースワークでは専門知識を習得し、議論をする場については、修士研究で行い、研究室内や外部の学会などで専門的な議論を行うという工学分野の特性が出ているものと思われる。小テスト、レポートやblackboard、Emailの活用も他研究科とほぼ同じようなスコアとなっている。blackboardやEmailの活用については、在籍者の数が少ないことが理由と思われる。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

授業や課題のための図書館で資料、文献を調べた経験（全体86%に対して56.7%）は全体に対して少し低い。これは、工学研究科の特性として、インターネットの利用（100%）や、専門文献などをあたる必要があるためと思われる。大学院での講義の内容は専門性から図書などが多く、この点が現れているものと思われる。教職員への学修に対する相談経験は少ない（全体67.3%に対して53.3%）。これは、修士論文研究での相談、打ち合わせは綿密に行なっている。それがこの数値には入っていないと思われる。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

授業出席科目数は3～4科目が最も多く（33.3%）ついで13科目以上（23.3%）が続く。科目数が少ない可能性として、工学研究科では早期履修制度をすでに実施していることの影響が考えられる。バイト時間が全くない学生が最も多く（26.7%）ついで、19時間以上（23.3%）となっていることは、奨学金の取得状況や学生間の経済的な格差が大きいことを示している。大学院生の学修時間を確保するためにも、大学から学費に対する適切な補助が求められる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

専門分野に関する知識・技能や情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力、情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力、履修した内容をまとめて、発表する力については、いずれも身についた計が100%であり、いずれの力でも「よく身についた+身についた」の合計が80%を超える高いスコアを示している。他の人と協力して物事を進めていく力についても90%と高いスコアを示している。また、必要な場合のリーダーシップを発揮できる力（83.3%）についても後輩の指導などを通して育成されているものと思われる。社会が直面する課題を理解する力（80%）はスコアが高い。平均よりも低い分野の特性が出ているものと思われる。

これらのことから、大学院としての専門教育が成功している数値を見なしてよい。外国語の運用能力については、全体の81.3%に対して、66.7%と低い。

本学のディプロマポリシーにある専門性は達成できたと思われる。また、人間性についてはリーダーシップ力や協力して進めていく能力のスコアからも明らかである。一方、国際性については、さらなる改善が必要であると思われる。

国際協力学研究科

1. 本年度の授業の中での経験について

本研究科の講義や演習において、学生自身が自分の考えや意見を述べ、教員や学生と議論ができる自由な雰囲気根付いていることがアンケート結果によって示された。議論を通して、新しい知識や考えを吸収して問題解決能力を向上させる。そしてその到達度を評価するために小テストや課題レポートが課される。今後も、こうしたサイクルが円滑に機能するよう工夫を凝らしていくことにする。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

授業時間以外に、多くの学生は他の学生や教員と授業や研究内容について相談している。しかし約25%の学生は相談経験がない。授業や研究において問題を抱えていないか注視していく必要があると考える。また、授業時間外の文献・資料収集や情報収集については、学生は、インターネットだけでなく、図書館も積極的に利用している。今後も、両者の特性を活かして研究活動に取り組むよう、研究指導をしていく。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

本研究科の学生は、他の研究科に比べて週当たりの授業出席科目数が多く、また授業に関連する学修時間も長くなっている。幅広い知識を得るために、関連する授業を履修し、講義や演習での発表資料やレポートの作成に時間を割き、積極的に取り組んでいる。一方で、授業関連外の読書、アルバイトや趣味などに費やす時間も比較的長くなっている。学業、アルバイトや余暇など、学生は一週間の時間を有効活用している姿がアンケート結果にも表れている。今後も、学生が積極的に活動できる環境づくりに努めていく。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

本研究科では、現実世界で生じる喫緊の課題を研究テーマとしているだけに、新しい情報を収集・分析し、専門知識を不断に更新していく必要がある。各講義や演習におけるそうした実践の成果として、専門知識や情報収集の技術が向上したと学生自身が高く評価していると考えられる。また、研究テーマの内容は実際に解決を求められている問題であるため、解決に向けて専門を異にする人たちとの協働作業も欠かせない。こうした点も講義や演習の中で学生に浸透し、専門の異なる学生間での交流も増えてきている。研究科の特性を活かし、今後も学生の問題解決能力を向上させる取り組みを進めていく。

5. 学部・研究科設問項目

現時点では、本研究科独自の設問項目は設定されていない。従来通り、教員間の意見交換等を通じて把握すべき新しい動向について注視していく。把握すべき事柄が出た際には、研究科委員会で検討し、研究科設問項目に速やかに反映させていくことにする。

地方政治行政研究科

1. 本年度の授業の中での経験について

- ・平成30（2018）年12月20日～令和元（2019）年2月15日に拓大ポータルからのweb調査を行った。調査時点の本研究科在籍総数8名の内、その半数の4名が回答した。
- ・「考えや課題を発表」「教員への質問・意見」「学生同士の議論」「定期的な小テスト・レポート」をよく経験した学生は100%（4名）、また、「体験授業」「Blackboard・E-mailの活用」をよく経験した学生は75%（3名）であった。授業を通じて学生が様々な経験を十分にできている様子が表れている。

2. 本年度の授業時間外の学修態度について

- 「他の学生との授業内容に関する話し合い」「授業のための図書館での資料等調査」をよく経験した学生は100%、また、「教職員への相談」「授業や課題のためのインターネットでの情報収集」をよく経験した学生は75%であった。学生が自発的に授業時間外に他の学生や教職員と関わりながら課題等の準備をしている様子が表れている。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

- ・「週当たりの授業出席科目数」は、他研究科と比べ「1～2科目」が75%となっており、少ない。その理由は、本調査からは明確には分からないものの、回答者4名の内3名が修士2年であることから、修士1年時点で単位取得が順調に行われたことが理由であると考えられる。これは、「週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間」が少ないことの説明でもある。
- ・「読書時間」「アルバイト時間」「週当たりの個人的な趣味活動時間」は他研究科と比べると多いとは言えない。上記と合わせて考えると、修士2年で論文執筆に多くの時間を割いている可能性が考えられる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力（学修成果・経験）について

- ・「専門分野に関する知識」「情報収集力」「課題を発見する力」「協力して進める力」「外国語の運用能力」「学修内容の発表力」「文章表現力」「文書・資料の作成力」について、「よく身に付いた」又は「身に付いた」と回答した学生は100%であった。
- ・「リーダーシップ」「社会的課題の理解力」について「よく身に付いた」と回答した学生は75%であった。残る1名は「少し身に付いた」と回答している。総じて教育課程を通じて新たな能力を獲得していることが窺える。
- ・本研究科は、カリキュラム・ポリシーに基づき、社会の現状を正確に把握するためのコースワークの履修に続きリサーチワークにより分析能力を養成するという体系的な教育を行っている。上記の結果は、それらの体系的な教育の成果を表しており、ディプロマ・ポリシーの実現に寄与していることが窺える。